

研究報告書第78号

平成22・23年度 教育相談に関する研究

研究主題

「教師のためのソーシャルスキルトレーニング」



茨城県教育研修センター

目 次

| | ページ |
|---|-------|
| はじめに 「教師のためのソーシャルスキルトレーニングについて」 東京学芸大学教授 相川 充 | 1 |
| 1 主題設定の理由 | 2 |
| 2 ねらい | 2 |
| 3 研究の内容 | |
| (1) ソーシャルスキルについて | 2～3 |
| (2) 教師のソーシャルスキルトレーニングについて | 3～4 |
| (3) ソーシャルスキルトレーニングの進め方について | 4 |
| 4 実践事例 | |
| (1) オープンマインドスキル | |
| ア 非言語コミュニケーションを意識しよう【中学校】 | 6～9 |
| イ 心に余裕がある先生をイメージしよう【高等学校】 | 10～13 |
| (2) 傾聴スキル | |
| ア 子どもにとってよい聴き手になろう【小学校】 | 14～19 |
| イ 子どもからの批判に対応しよう【小学校】 | 20～23 |
| ウ 聴き上手の先生になろう【中学校】 | 24～27 |
| エ 話を聴こう【中学校】 | 28～31 |
| オ 話を聴く姿勢を身に付けよう【高等学校】 | 32～35 |
| カ 心理的報酬を与えながら聴こう【高等学校】 | 36～39 |
| (3) 「私」メッセージスキル | |
| ア 自分の思いを相手に伝えよう①【小学校】 | 40～45 |
| イ 自分の思いを相手に伝えよう②【小学校】 | 46～49 |
| ウ 自分の思いを上手に伝えよう～「私」メッセージ～【中学校】 | 50～53 |
| エ 前向きに伝えよう【中学校】 | 54～57 |
| オ 「私」メッセージを使ってみよう【高等学校】 | 58～61 |
| (4) コーチング会話スキル | |
| ア 子どもの考える力を育てる会話をしよう【小学校】 | 62～65 |
| イ 子どもの「自分で考える力」を伸ばそう【中学校】 | 66～69 |
| ウ 「声かけマジック」で子どもを伸ばそう【中学校】 | 70～73 |
| エ 「なに？」で質問してみよう【中学校】 | 74～77 |
| オ 「なに？」で質問する練習をしよう【中学校】 | 78～81 |
| カ 質問の幅を広げよう【中学校】 | 82～85 |
| キ 積極的に話しかけて考えさせよう【中学校】 | 86～89 |
| ク 生徒の伸びる力を支えよう【高等学校】 | 90～93 |
| 5 研究のまとめ | 94～95 |
| 6 研究の成果 | 95 |
| 7 今後の課題 | 95 |
| 文献 | 96 |
| 関係者一覧 | 97 |

はじめに

「教師のためのソーシャルスキルトレーニング茨城版」というチャレンジ

茨城県教育研修センターの教育相談課から私が「教育相談に関する研究」事業の講師を依頼されたのは平成22年春のことです。足かけ2年にわたり、県内の小学校、中学校、高校から選ばれた8人の先生方の研究に対する指導・助言という役目とのことでした。それ以前に私は各地の小、中学校や教育研修センターで「教師のためのソーシャルスキル」について講義する機会を頂いてきましたが、それらはいずれも1回限りの研修会の講師でした。ところが今回は県のレベルで、しかも小、中学校だけでなく高校の先生も含まれている。これは画期的なことだと私は興奮を覚えました。

平成22年の最初の研究協議会で私は8人の先生方に、そもそもソーシャルスキルとは何か、なぜ教師のソーシャルスキルが問題なのか、教師のソーシャルスキルの具体的な中身は何かなど、基本的なことをお伝えしました。8人の先生方は、私の簡単な講義だけでは不足していた部分を自ら学習し、各自で研修プログラムを作り、各校で実践してくれました。その実践に対して私がコメントをし、それを受けて8人の先生方はプログラムを改善させて、また実践をして、それにまた私がコメントして。こうしてできあがった実践事例が、ここに収められている研修プログラムです。これは、言わば「教師のためのソーシャルスキルトレーニング茨城版」です。

この茨城版の強みは、教師自らが研修プログラムを作ったことです。小、中、高それぞれの教師は、学級担任制か教科担当制かによってプロ意識の置きどころに違いがあり、子ども達との距離の取り方にも差があります。そのような違いや、小、中、高それぞれの事情を踏まえて、この茨城版では、取り上げるテーマや具体例の出し方に工夫が盛り込まれています。また、同僚に研修プログラムを実施して、その効果性を確かめている点も強みです。

ページをめくって実践事例を見ていただくと分かるように、ここで取り上げているソーシャルスキルの中には、教師なら既実践しているコツやワザも含まれていると思います。教師のソーシャルスキルとは、教師が時間をかけて体験して得る経験知を、スキル(技術)として体系立てたものだと言えます。経験知をスキルとして扱うことで、経験の蓄積がほかの教師に、特に若い教師に容易に伝えることができるようになります。また、お互いにソーシャルスキルを伝え合えば、子ども達とのトラブルや困難を、一人で抱え込むことなく教師同士が支え合う契機になります。

教師がソーシャルスキルを実行すれば、子ども達の思いを上手に受けとめて深く理解できるようになります。自分の感情を調整できるようになって、自分の思いを適切に、しかも効果的に子ども達に伝えられるようになります。そうなれば、教師にとっても子ども達にとっても学校や学級が居心地の良い場所になります。そうなるために、ここに示されている方法を参考にして、ぜひ各学校で研修を始めてみてください。

教師のために、そして子ども達のために、一人でも多くの教師がソーシャルスキルを身につけてほしいと私は願っています。その願いの具体的な1つのかたちがここにあります。私の願いにかたちを与えてくださり、8人の先生方を支えてくださった茨城県教育研修センター、教育相談課の皆様にご感謝申し上げます。また、多忙な本務の合間を縫って研修プログラムを作り、同僚に実施するという困難な目標にチャレンジして下さった8人の先生方に、心より敬意を表します。

平成24年1月

東京学芸大学教授

相川 充

1 主題設定の理由

不登校やいじめ，暴力行為といった，児童生徒の学校不適応行動の背景に，人間関係の希薄化が挙げられている。人間は，生まれた瞬間に親子関係や兄弟姉妹関係が生じ，成長に伴って大人や友人との関係が始まる。その中で，人間関係がうまく始められない，始まった関係を維持できない，そういう児童生徒が増えていると考える。

学校では，児童生徒同士の関係だけでなく，教師と児童生徒の人間関係もある。教師は児童生徒と関係を結ぶために，児童生徒のことを知る努力をしている。同じように，児童生徒は教師と関係を結ぶために，教師のことを知る努力をしている。つまり，お互いに何を考え感じているのか，相手に伝える必要がある。黙っていたのでは分からないので，具体的な言葉や表情，身振りに託して，お互いが相手に思いを伝えている。

それらの具体的な方法やコツのことをソーシャルスキルと呼んでいる。ソーシャルスキルは一方的なものではなく，双方向なものでこそ，効果的である。つまり，児童生徒がソーシャルスキルを身に付ける上で，教師のソーシャルスキルが果たす役割は大きい。

そこで，今回の研究では，児童生徒のソーシャルスキルを育む教師の指導力向上に役立つトレーニングプログラムの開発を行う。先行研究の成果と課題を踏まえながら，それらの理論と実践を更に発展させ，県内外に発信していく有意義な研究を目指したい。

2 研究のねらい

児童生徒のソーシャルスキルを育む教師の指導力向上を目指す。

3 研究の内容

(1) ソーシャルスキルについて

ソーシャルスキルとは，「思い」のやりとりの技術である。教師と児童生徒の間で，教師は自分の思いを児童生徒に伝達する場面がある。そのとき，児童生徒はそれを受容しようとする。この逆もある。その際に，お互い上手に伝達・受容できるようにソーシャルスキルを駆使しているのである。具体的にいうと，「分かりやすく」や「優しく」伝達するのではなく，「相手の目を見て」や「ゆっくりと区切りながら」伝達する。「しっかりと」や「まじめに」受容するのではなく，「話す相手に身体を向けて」や「他の作業をやめて」受容するといった具合である。ここでいう「相手の目を見て」や「ゆっくりと区切りながら」，「話す相手に身体を向けて」，「他の作業をやめて」がソーシャルスキルである。ソーシャルスキルは具体的な行動であり，伝達・受容はそれらによって上手に行われるという考え方である。

次に，児童生徒がソーシャルスキルを身に付けることの意義や教師の役割に関する内容について記す。

ソーシャルスキル不足による問題点

○現時点での問題点

- ・対人不適応（孤独感，抑うつ，引きこもり等）を生む。
- ・対人不適応からの回復を遅らせる。

○将来の問題点

- ・非行や犯罪
- ・職場の人間関係に起因する不適応
- ・家庭内のトラブル（家庭内暴力，幼児虐待，離婚）
- ・精神医学上の問題（うつ病，アルコール依存症）

ソーシャルスキルを教えることで期待できる効果

- ・現在の不適応状態を改善する（治療効果）。
- ・将来の問題に対処する（予防効果）。

児童生徒のソーシャルスキル不足が起きる理由

- ・家族・家庭の在り方が変化
- ・放課後の過ごし方が変化
- ・地域社会の教育力が変化
- ・社会状況が変化

児童生徒がソーシャルスキルを身に付ける方法

- ・周囲の大人（教師を含む）や友人から言われて
- ・他の人（教師を含む）を手本にして，まねして
- ・大人（教師を含む）から誉められたり叱られたりして
- ・何度も繰り返しやってみて
- ・いろいろな場面で応用して

(2) 教師のソーシャルスキルトレーニングについて

教師の基本的ソーシャルスキルを次の四つとした。

基本的な心構え：オープンマインドスキル

児童生徒に対して，心を開いて関わろうとする気持ちがあることを，言葉や行為で示すこと。話しやすい教師，近付きやすい教師という雰囲気を作ること。

思いを受け取る：傾聴スキル

話すきっかけ，時間，空間を与え，聴き手に徹すること。全体で聴いているというメッセージを送り，児童生徒に心理的報酬（喜び，満足，安心，自尊心の向上）を与えること。

思いを伝える言葉：「私」メッセージスキル

教師が自分の思いを素直に伝える言葉。意味的主語が教師であり，考えや感情を表明する話法のこと。

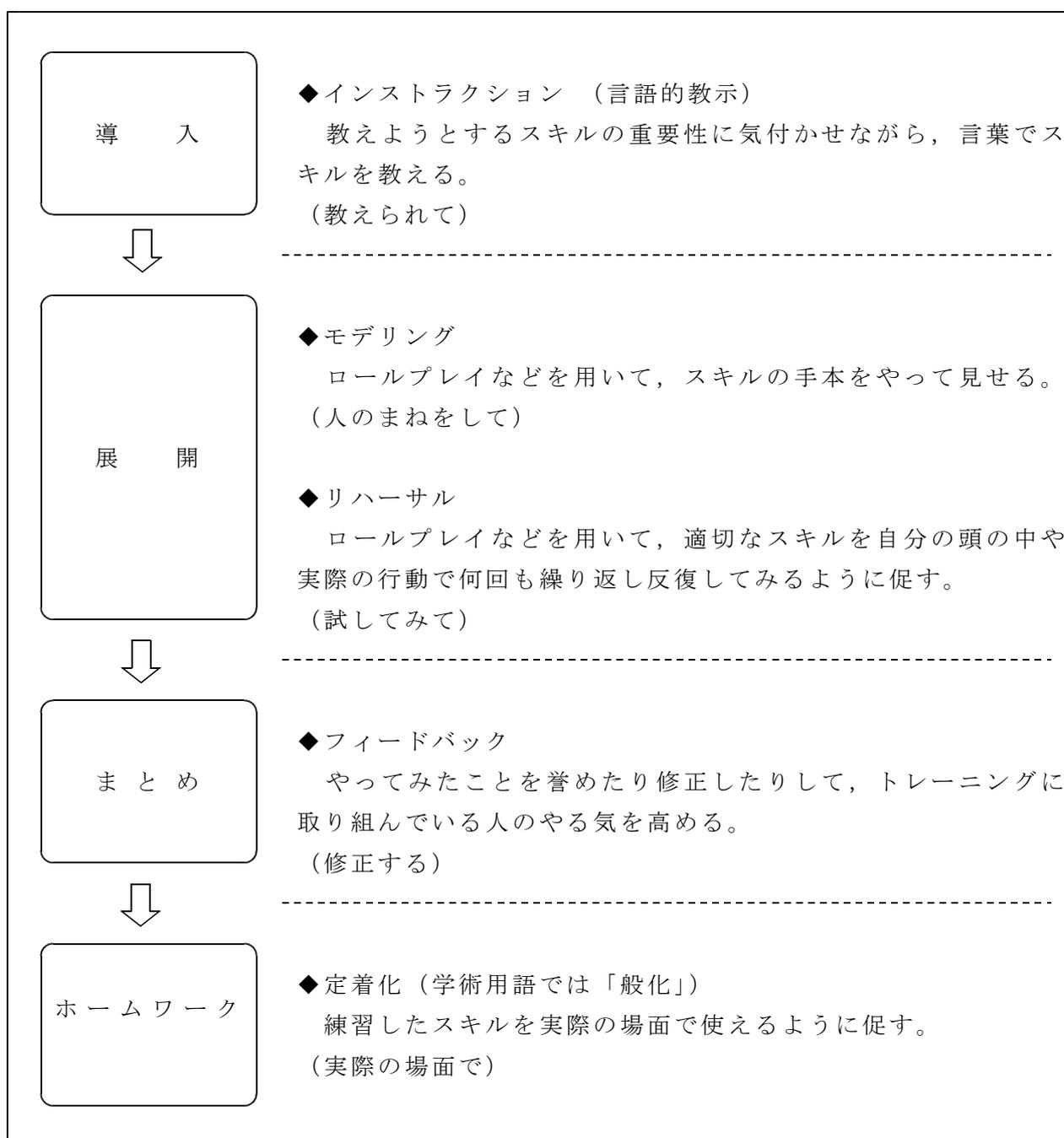
児童生徒の問題解決力を高める：コーチング会話スキル

児童生徒の中にある答えや能力を引き出すための言語的・非言語的行動。

これらの中には、既に知っていることや行っていることもある。それらをソーシャルスキルという心理学的概念でまとめ、実践していこうとするのがソーシャルスキルトレーニングである。

ソーシャルスキルトレーニングに対して、それで全てが解決するのかという批判もある。批判に対して、それで全てが解決するのではなく、解決することや助けになることがあるという立場である。基礎的な技術を伝え、繰り返し練習することで、とっさの場面で使えることに意味がある。そこから、一人一人の教師が更に応用していくことを目指しているのである。最初はぎこちなく感じることもあるが、練習を繰り返し慣れていくことが重要である。

(3) ソーシャルスキルトレーニングの進め方について



4 实践事例

オープンマインドスキル

非言語コミュニケーションを意識しよう

ねらい

言葉以外のコミュニケーションを意識しながら子どもと接することで、好ましいコミュニケーションを図りやすくする。

【ポイント】

- ① 非言語コミュニケーション
- ② 二通りのコミュニケーション・パターン

準備 資料, ワークシート

進め方

I ねらいを説明する (資料 P8)

人間は、言葉を用いてコミュニケーションを図り、感情や意思を伝え合っています。また、「目は口程に物を言う。」ということわざがあるように、表情や視線、身振りなどが、コミュニケーションの重要な役割を担っていることがあります。これらの、言葉を用いないコミュニケーションの手法は、非言語コミュニケーションと言われています。

この研修は、教師が周りの人と接するとき、好ましい非言語コミュニケーションがとれるようになることをねらいとしています。好ましい非言語コミュニケーションを意識することで、より好ましい人間関係の構築が期待できます。子どもや保護者との好ましい人間関係は、生徒指導の充実や学校に対する理解の深まりにもつながるのではないのでしょうか。

II スキルを説明する (資料 P8)

① 非言語コミュニケーション (Albert Mehrabian 1971 年)

ア 人が他人から受け取る情報の 90%以上は、会話の内容以外からの情報

イ 55%は表情から

ウ 38%は声の大きさやテンポから

② 二通りのコミュニケーション・パターン

| | 肯定的な印象を与えるパターン | 否定的な印象を与えるパターン |
|----|----------------|----------------|
| 表情 | 明るく、笑顔で | 無表情、しかめっ面 |
| 視線 | 相手を適度に見ながら、口元を | 学級日誌を見たまま |
| 口調 | 心配そうな声 | 面倒に感じている声、小さな声 |

III 演習をする

【場面設定例】

誤って教室の窓ガラスを割ってしまった生徒に対して、先生が、安全な生活を心掛けることや、今回の失敗を今後の生活に役立てることを指導する。

例1 否定的な非言語コミュニケーション

(しかめっ面または無表情、視線は合わせない、面倒だと思っている気持ちが伝わるように)
先生：またガラスを割ったの。
生徒：すみませんでした。
先生：ほんとに悪いと思っているのかな。謝るだけでは、しかたないんだけどね。
生徒：・・・
先生：これから、どういう生活を送ればよいと思っているのかな。
⋮

例2 肯定的な非言語コミュニケーション

(気持ちは表情に表す、視線を向ける、身体を向ける)
先生：またガラスを割ったの。
生徒：すみませんでした。
先生：失敗したと思っているんだね。今の気持ちを忘れてはいけないよ。
生徒：はい。
先生：これから、どういう生活を送ればよいと思っているのかな。
⋮

- ① 二人組を作り、否定的な非言語コミュニケーションを意識してロールプレイを行う。
- ② 生徒役と先生役を交代して、肯定的な非言語コミュニケーションを意識してロールプレイを行う。

IV 振り返りをする

- ① 生徒役として話を聴いてもらった感想を、ワークシート（P9）に記入する。
- ② 好ましいコミュニケーションを図るには、どのような非言語コミュニケーション・パターンが望ましいのかを記入する。
- ③ 記入したことを基に、肯定的な非言語コミュニケーションのポイントを整理し、日常の会話から実践していくことを確認する。

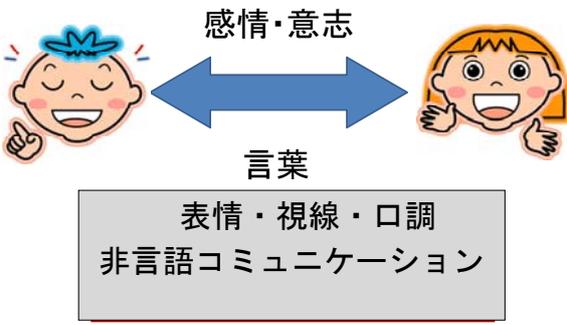
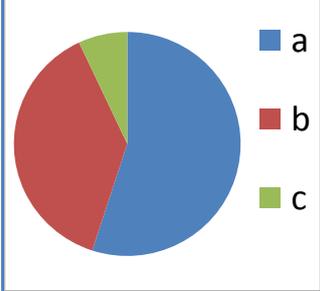
留意事項

- 好ましい非言語コミュニケーションは、すでに実践している教師が多いことが予想される。この研修では、表情、視線、口調の三つを意識してロールプレイを行う。研修の最後に、非言語コミュニケーションについては、他にも身振りや姿勢、位置関係といったことにも気を付けるとよいことを説明する。

成果

- 以前にも聞いたことがあるスキルの再確認と、すでに実践している非言語コミュニケーションの理論的な裏付けの機会となった。
- 教師が否定的な非言語コミュニケーションをとった場合の子どもの気持ちを感じることで、肯定的な非言語コミュニケーションの重要性を実感することができた。

[資料]

| | | | | | | | |
|--|--|---|--------------|---|----------------------|---|----------------|
| <p>研修のねらい</p>  <p>感情・意志</p> <p>言葉</p> <p>表情・視線・口調 非言語コミュニケーション</p> | <p>人が他人から受け取る情報の割合</p>  <table border="1"><tr><td>a</td><td>a: 表情から(55%)</td></tr><tr><td>b</td><td>b: 声の大きさ, テンポから(38%)</td></tr><tr><td>c</td><td>c: 言葉の内容から(7%)</td></tr></table> <p>Albert Mehrabian(1971)</p> | a | a: 表情から(55%) | b | b: 声の大きさ, テンポから(38%) | c | c: 言葉の内容から(7%) |
| a | a: 表情から(55%) | | | | | | |
| b | b: 声の大きさ, テンポから(38%) | | | | | | |
| c | c: 言葉の内容から(7%) | | | | | | |
| <p>デモンストレーション</p> <p>放課後、教室で学級日誌にコメントを記入していると、一度昇降口まで行った生徒が戻ってきて、「自転車の鍵をなくしてしまった。」と言いに来た。</p> <p>① 表情 ② 視線 ③ 口調</p> | <p>非言語コミュニケーションのスキル</p> <ol style="list-style-type: none">① 表情 話題に合わせて② 視線 合わせる頻度 口元あたりを見て③ 口調 高さや大きさ | | | | | | |
| <p>やってみましょう(場面設定)</p> <p>誤って、教室の窓ガラスを割ってしまった子どもに対する指導</p> <ul style="list-style-type: none">・安全な生活を心掛けること・失敗を今後の生活に役立てること <p>最初の先生役……………否定的に 2回目の先生役……………肯定的に</p> | <p>振り返りましょう</p> <ol style="list-style-type: none">1 生徒役として話を聴いてもらった感想を書いてください。2 肯定的な印象を与えるコミュニケーション・パターンについてまとめてください。 | | | | | | |

〔ワークシート〕

オープンマインドスキル

非言語コミュニケーションを意識しよう

1 非言語コミュニケーション・パターンについて整理しましょう。

自分が生徒役で聴いてもらった教師は、

肯定的な役を

否定的な役を

演じている教師でした。

どちらかを○で囲んでください。

生徒役として聴いてもらった感想

2 二通りのコミュニケーション・パターンをまとめましょう。

| | 肯定的な印象を与えるパターン | 否定的な印象を与えるパターン |
|-------------------------------|----------------|----------------|
| ① 表情 | | |
| ② 視線 | | |
| ③ 口調 | | |
| ④ その他 ・身振り ・姿勢 ・位置関係 | | |

心に余裕がある先生をイメージしよう

ねらい

子どもが話し掛けやすい、見ていて安心できる雰囲気や態度の教師像をイメージし、自分の普段の行動をチェックすることで改善点を洗い出し、日常生活の中で意識して行動できるようにする。

【ポイント】

子どもが話し掛けやすい、安心できる雰囲気や態度

準備 提示資料，ワークシート

進め方

I ねらいを説明する

普段仕事や時間に追われていると、つい何かをしながら子どもに対応したり、余裕の無い言動をしてしまったりすることがあると思います。例えば、(生徒役を指名して)ここに具合が悪そうにしているAさんがいます。(腕時計に目をやりながら、早足で生徒の前を通り過ぎる。)このように歩いている教師にAさんはどう感じるでしょうか。教師がどのような様子だったら安心して声を掛けられるでしょうか。今回はまず子どもが話し掛けやすい、見ていて安心できる雰囲気や態度の教師像をイメージしてみます。そして、自分の普段の行動と照らし合わせて改善すべき点を見付けて、行動へ反映させていきましょう。

II スキルを説明する

○ 子どもが話し掛けやすい、安心できる雰囲気や態度

子どもの思いを受け止めるためには何よりもまず、子どもが「この先生は私の思いを受け止めようとしている。」と思うような『心が開いている』雰囲気をもつ教師でなくてはならない。雰囲気というと曖昧で捉えどころのない概念、あるいは実態のない概念のように聞こえる。しかし、雰囲気や態度を作っているのは、子どもの目の前に映る教師の外見や服装、表情、身振り手振り、具体的な個々の動作である。子どもが不安を感じずに安心して話し掛けられる雰囲気は大切である。心に余裕があり、子どもが話し掛けやすい、見ていて安心できる教師とを感じる雰囲気や態度を身に付ける。

Ⅲ 演習をする

例 <具体的な行動を挙げてみましょう>

- ・表情：穏やかな笑みを浮かべている先生
- ・話し方：ゆっくりと話をしてくれる先生
- ・歩き方：周囲を見ながら生徒に声を掛け、落ち着いて歩いている先生

- ① ワークシートに、心に余裕がある先生のイメージを10個挙げる。(10分間)
- ② グループ内で自分のイメージを発表し、お互いに共有する。自分で思い付かなかった点でも、よく思えたものについては書き足す。
(一人一つずつ3～5周程度)
- ③ ワークシートに書いてあるイメージのうち、自分が現在実践できているものには◎、すぐに実践できそうなものには○、長期的に実践していきたいものには☆を付ける。
- ④ ◎のもの以外で、特に重点的に意識していきたいポイントを○、☆を付けたものの中から挙げる。
- ⑤ ④で挙げたポイントは自分にとっての「なりたいイメージ」であるので、具体的な行動につなげ、グループのメンバーに対して、実際に行動してみる。(ゆっくり話す、落ち着いて歩くなどを、実際に体を動かして行ってみる。)
あくまでも雰囲気を作ることが重要なので、必ずしも思い描いたイメージと自分の本質とが完全に重なっている必要はない。どうしても忙しいときに、余裕をもった行動といっても、なかなか難しいものである。常に行うということではなく自分の余裕に合わせて、日常から「意識して」演じていくのも一つの方法である。特に苦手としている部分を自分で認識し、上手に表現できるようにしていくことが大切である。

Ⅳ 振り返りをする

- ① 自分の思い描く教師像と、実際の行動はどう違っているか。
- ② 今後の学校生活の中で気を付けていきたい点は何か。

留意事項

- 指導者側のイメージの押し付けにならないように、教師が考えて、納得できるようなイメージの構築が必要である。
- スキルの定着のために、数週・数か月経過した後、ワークシートを見返して、もう一度チェックを行う。その後、再度、意識したいポイントをまとめる。

成果

- 普段意識しないで行っている行動を振り返るよい機会となった。
- 理想的なイメージをもつことで、常にとまではいかないが、子どもが話し掛けやすい雰囲気を作れることを心掛けるようになった。

〔提示資料〕

①

心に余裕がある先生を
イメージしよう

②

こんなことありませんか？



どんな雰囲気 of 教師に、子どもは話し掛けやすいでしょうか？

③

雰囲気、というと曖昧ですが、
「あの先生は、子どもの思いを受け止めようとしている。」と思われる『心が開いている』雰囲気 of 教師とはどのような教師か考えてみましょう。

心に余裕があり、子どもが話し掛けやすい、見ていて安心できる雰囲気 or 態度を身に付けましょう。

④

- ・ 姿勢、表情
 - ・ 話し方
 - ・ 時間の使い方
 - ・ 歩き方
 - ・ 子どもへの態度
- などなど、ポイントはたくさんありますね。

⑤

皆さんでイメージを共有しましょう。
よいと思ったものは書き足しましょう。
実践できていることをチェックします。

実践できているものには◎

すぐに実践できそうなものには○

長期的に実践していきたいものには☆を付けます。

⑥

○、☆の中で、特に自分が意識して実践していきたいポイントを、具体化して実際に行動してみましょう。

2週間後に、もう一度ワークシートを見返してみましょう。

○や☆が◎に変わっていますか？

新たなイメージが湧きましたか？

[ワークシート]

心に余裕がある先生の行動って？

The worksheet is designed for a group activity. At the center, there are two black silhouettes representing a man and a woman, each with a white question mark on their head. Surrounding these silhouettes are ten empty speech bubbles of various shapes and sizes, arranged in a circular pattern to facilitate a group discussion or brainstorming session.

傾聴スキル

子どもにとってよい聴き手になろう

ねらい

子どもの気持ちや思いを引き出し、受け止めるための姿勢や態度を身に付ける。

【ポイント】

- ① 身体で聴く。(非言語コミュニケーション)
- ② 聴き手に徹する。

準備 スキル説明シート、ワークシート、ロールプレイカード、資料、例の拡大図

進め方

I ねらいを説明する

私たちは、子どもたちと関わる中で、知らず知らずのうちについ偉そうな聴き方になってしまったり、指導的な要素が強くなった聴き方をしてしまったりすることがあるのではないのでしょうか。このような聴き方では、子どもの本当の気持ちや思いを聴き出すことは難しいです。今日は、子どもが自分の気持ちや思いを話したくなるような話の聴き方、姿勢・態度を身に付けるための研修です。

II スキル説明シート (P16) で、スキルを説明する

① 身体で聴く (非言語コミュニケーション)

ア か (身体の向き) : 子どもに向き合う, 手を伸ばすと相手に触れるくらいの距離

イ め (目線) : 子どもと同じ高さ, 視線を外さない, 話題に合った表情

ウ う (うなずく) : 適度なうなずき

エ リ (リラックス) : リラックスしつつ軽い前傾き, 余分な動きをしない。

② 聴き手に徹する (あいづちのスキル)

ア あいづちを打ちながら聴く。・・「うん, うん。」「なるほど。」

イ 途中で話を遮らない。・・・・話題を取ったり, 変えたり, 批判したりしない。

ウ 質問は話の区切りです。・・「どうしてそう思ったの?」「どうなったの?」

エ 感情を否定しない。・・・・「そうだったんだ。」

オ 何かできることがあるか尋ねる。・・・・「それで何か先生にできることある?」

III 演習をする

【場面設定例】

行動が遅くマイペースで、自分の気持ちを伝えることの苦手なAさん。学級の活発な児童からは、「早くして。」「何やってるの。」とせかされ、その度に嫌な気持ちになる。

今日は昼休みに学級全員で遊ぶことになっていたが、給食の片付けに手間取り、外に出て行くのが遅くなってしまった。数人の児童から「遅いよ。早くして。」と言われ嫌な気持ちになり、教室に戻り教師に相談することにした。教師は、児童のノートを見ているところであった。

例 こんな聴き方をしていませんか

児童A：先生、あの～・・・
先生：何？（顔を見ずに、宿題のノートに丸を付けながら）
児童A：あの～、みんなが私のこと・・・
先生：何、また何かあったの？
児童A：「遅い。早くして。」って言うの。
先生：う～ん、それで何？ 何か言い返したの？
児童A：ううん、何も・・・
先生：「言わないで。」って言って来な。それから、Aさんもそう言われないうように、もう少し早く行動できるといいね。

参考例 相手が話しやすい聴き方

児童A：先生、あの～。
先生：何？どうかしたの？ （ペンを置き、身体を向け、目線を合わせながら）
児童A：あの～、みんなが私のこと・・・
先生：うん、うん （うなずきながら） それで・・・
児童A：○○○○○○。

① ワークシート（P17）を配付し、ブレインストーミングを行う

- ア 例のような聴き方をされて、どう感じたかを話し合う。
- イ 例のどこを直すとよい聴き方になるか考えを出し合い、シナリオを作る。その際、セリフだけでなく、気を付けることも記入する。
- ウ 作ったシナリオをロールプレイで確かめる。
- エ ロールプレイを繰り返し、シナリオの修正を行う。

② ロールプレイを行う

- ア 二人組でロールプレイカード（P18）を引いてテーマを決め、「非言語コミュニケーション」、「あいづちのスキル」を意識しながら話を聴く。

<テーマ> もし100万円手に入ったら 最近うれしかったこと
行ってみたい国 好きなテレビ番組 マイブームについて等

- イ 聴き手を交代しながらロールプレイを繰り返し、傾聴の練習をする。

IV 振り返りをする

- ① 子どもにとってよい聴き手になるためのポイントを再確認する。
- ② 振り返りを記入し、お互いの感想・感じ方を確認し合う。

留意事項

- 資料（P19）を配付し、いつでも・どこでも確認し、使えるようにしておく。

成果

- 聴き手に徹することを意識したロールプレイを行うことで、普段の自分の対応を反省することができた。
- ロールプレイを通して、子どもは問題を解決してほしいのではなく、聴いて（共感して）ほしいのだということを実感できた。

子どもにとってよい聴き手になろう

【ポイント】

- 身体で聴く・・・かめうり
 - ・ か （身体の向き）：子どもに向き合う，手を伸ばすと相手に触れるくらいの距離
 - ・ め （目線）：子どもと同じ高さ，視線を外さない，話題に合った表情
 - ・ う （うなずく）：適度なうなずき
 - ・ り （リラックス）：リラックスしつつ軽い前傾き，余分な動きをしない。

- 聴き手に徹する
 - ・ あいづちを打ちながら聴く・・・「うん，うん」，「なるほど」
 - ・ 途中で話を遮らない・・・話題を取ったり，変えたり，批判したりしない。
 - ・ 質問は話の区切りです・・・「どうしてそう思ったの？」，「どうなったの？」
 - ・ 感情を否定しない・・・「そうだったんだ。」
 - ・ 何かできることがあるか尋ねる・・・「それで何か先生にできることある？」

【今日のポイント】

- 身体で聴く

・
・
・
・

- 聴き手に徹する

〔ワークシート〕

傾聴スキル

子どもにとってよい聴き手になろう

【場面設定例】

行動が遅くマイペースで、自分の気持ちを伝えることの苦手なAさん。学級の活発な児童からは、「早くして。」「何やってるの。」とせかされ、その度に嫌な気持ちになる。

今日は昼休みに学級全員で遊ぶことになっていたが、給食の片付けに手間取り、外に出て行くのが遅くなってしまった。数人の児童から「遅いよ。早くして。」と言われ嫌な気持ちになり、教室に戻り教師に相談することにした。教師は、児童のノートを見ているところであった。

- 1 例<こんな聴き方をしていませんか。>のどこを、どう直すと、もっとよい聴き方になるでしょうか？

※例（P15）の拡大図を掲示する。

※セリフだけでなく、気を付けることも記入する。

| | |
|---|---------------|
| 児童A：先生、あの～・・・ | 児童A：先生、あの～・・・ |
| 先生：何？ （顔を見ずに、宿題のノートに丸を付けながら） | 先生： |
| 児童A：あの～、みんなが私のこと・・・ | |
| 先生：何、また何かあったの？ | |
| 児童A：「遅い。早くして。」って言うの。 | |
| 先生：う～ん、それで何？何か言い返したの？ | |
| 児童A：ううん、何も・・・ | |
| 先生：「言わないで。」って言って来な。それから、Aさんもそう言われないように、もう少し早く行動できるといいね。 | |

- 2 今日の研修の振り返り

感想（よいと感じたこと、改善した方がよいと感じたこと等）を自由に書いてください。

(大変そう思う) (そう思う) (思わない) (全く思わない)

- 「ねらい」は、分かりやすかったですか。 A ・ B ・ C ・ D
- 「ポイント」の説明は、分かりやすかったですか。 A ・ B ・ C ・ D
- 演習の場面設定は、適切だと思いましたか。 A ・ B ・ C ・ D
- 振り返りによって、「ねらい」や「ポイント」を再確認できましたか。 A ・ B ・ C ・ D
- 今日の研修内容は、教師にとって有意義だと感じましたか。 A ・ B ・ C ・ D

〔ロールプレイカード〕

3つ願いが
かなうとしたら

好きな
テレビ番組

もし100万円
手に入ったら

最近
うれしかったこと

行って
みたい国

マイブーム
について

〔資料〕話をよく聴くために

1 最後まで聴こうと自分に言い聞かせる

- ◇ 子どもの話を最後まで聴く。
- ◇ 話題を変えない。話題を取らない。
- ◇ 話の途中で道徳的、倫理的判断を口にしない。
- ◇ 子どもの感情を否定しない。
- ◇ 時間の圧力をかけない。
- ◇ 沈黙に対しては一緒に沈黙し、子どもの反応を待つ。

2 反射させながら聴く

- ◇ 子どもから発せられた言葉や内容を教師自身が口にし、子どもにそのまま返す。

3 身体を使って聴く

- ◇ 子どもに近付く。(腕を広げたくらいの距離)
- ◇ 子どもの方を向く。
- ◇ 子どもの顔と同じ高さにする。
- ◇ リラックスした姿勢(軽い前傾)で聴く。
- ◇ 話の内容とマッチした表情で聴く。
- ◇ 適度にうなづく。
- ◇ 手や指、足先は、ほとんど動かさない。

4 子どもの身振りをよく見る

- ◇ 子どもは、自分の思いを言葉だけでなく、準言語(声の大きさや強さ、声の高さ、発話の速さ)や、非言語記号(表情、視線、手の動きなど)でも伝えてくる。

5 共感を示す

- ◇ 子どもが話してくれたことに感謝し、共感を示す。

【先生も】+【感情語】

ex)「先生もうれしい。」「先生も腹が立ってきた。」等

6 話題に関連した質問をする

- ◇ 話について疑問に思った点、よく分からなかった点を質問する。
- ◇ 開いた質問 ex)「～したって言っていたけど、どういうふうにしたの？」

子どもからの批判に対応しよう

ねらい

子どもの批判に耳を傾けて子どもの感情を発散させながら、子どもの批判する気持ちを収めることができるようにする。

【ポイント】

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 批判に耳を傾ける。 | ② 自分の怒りをコントロールする。 |
| ③ 言い分を知る。 | ④ 言い分を受け入れる。 |
| ⑤ 言い分はどう対応するか示す。 | |

準備 ワークシート，掲示用資料，付箋 2 色

進め方

I ねらいを説明する

小学生でも教師に対する批判を口にする子どもがいます。教師であっても批判されると、不快感や怒りを覚えますね。また、他の子の目もあり、過度に感情的になったり自己防衛的になったりすることもあります。しかし、それでは子どもの声に耳をふさぎ、思いを受け止め損なう恐れがあり、子どもと思いやりのある関係は築いていくことができません。そこで、批判は期待の表明と受け取り、批判の言葉の中から情報を集め、相互の関係を見直す対応ができるような聴き方を練習します。

II スキルを説明する

① 批判に耳を傾ける（批判の理由を確かめる）

批判の理由を尋ねるが、授業中の場合は、後で聴くことを約束する。

② 自分の怒りをコントロールする（口を閉じて10まで数える，深呼吸など）

「心の中で10まで数える。」，「深呼吸をする。」，「落ち着け！」など自分に指示を出し，理性的判断ができるまでの時間を稼ぐ。

③ 言い分を知る

子どもの話をしっかりと聴き，言い分を考える。また，どうしてほしいか尋ねてもよい。

④ 言い分を受け入れる

「言いたいことは分かったよ。」，「ごめんね，そんな気持ちにさせて。」，「確かに先生のやり方がまずかったね。」等，状況に応じた言葉を伝える。

⑤ 言い分はどう対応するか示す

ア 言い分に応えられる場合：〔約束の表明〕＋〔実行のとき〕＋〔実行の方法〕

イ 要求に応えられない場合：〔謝罪の言葉〕＋〔断りの表明〕＋〔その理由〕
＋〔代替案の表示〕

Ⅲ 演習をする

【場面設定例】

宿題調べを行い、いつも宿題をやってこない児童Bを叱らずに諭す先生に対して、児童Aが「先生はBさんをいつもかばっている。それはおかしい。」と言い出した。
児童A：先生は、宿題をやってこないBさんをどうしていつも怒らないんですか。かばってばかりで怒らないのは、おかしいと思います。

例1 子どもの批判に耳を傾ける対応例

児童A：どうして先生は、Bさんを怒らないんですか。
先生：Aさんは、どうしてそう思ったの。
児童A：普通、宿題をやってこなければ怒られるのは当然だと思います。
みんなはやっててBさんだけやらないのに、怒らないのはずるいです。
先生：（10まで数える、深呼吸、落ち着け・理性的になるまで待つ。）
先生：そう思ったの。それでAさんは、先生にどうしてほしいと思ってるの。
児童A：ちゃんと怒ってほしいです。
先生：言いたいことは分かったよ。言いにくいことを話してくれてありがとう。

例2 子どもの批判を遮ってしまう対応例

児童A：～先生は、Bさんをひいきしてると思います。
先生：だまりなさい。あなたには関係ないことです。
児童A：・・・。
先生：先生のすることに口出しをはいけません。
児童A：・・・。
先生：先生の批判なんかしないでいいから、自分のことをやりなさい。

- ① ブレインストーミングを行う。
- ② 子どもの批判する気持ちを取めるにはどうすればよいかを考える。
- ③ ロールプレイを行う。
- ④ 役を交代し、ロールプレイを行う。

Ⅳ 振り返りをする

- ・子どもの批判に対して、教師自身が感情をコントロールし、子どもの批判の気持ちを取めるための対処方法について話し合い、ワークシート（P22）に記入する。

留意事項

- 子どもの批判に対して謝罪したり感謝したりするのは抵抗があるかもしれないが、大人として子どもに接する気持ちで行う。
- これらの批判への対応は、「保護者からの批判」にも有効である。ただし、これらが有効なのは初期段階であり、学校全体で協力して対応することが大切である。

成果

- 教師の言い分や指導したいこと、思いを分からせようとするのではなく、子どもの思いやありのままの感情を聴くことの大切さを全職員で実感することができた。そうすることで、教師の思いが届くのではないかという認識を共有することができた。
- 子どもたちと思いやりのある関係を築くための具体的な会話の仕方を体験的に知ることができた。また、児童役は子どもの気持ちを理解する機会になった。

[ワークシート]

子どもからの批判に対応しよう

1 Iについて（メモ）

2 IIについて（メモ）

3 IIIの「子どもの批判に耳を傾ける対応」について気が付いたことを書いてください。

4 IIIの「子どもの批判を遮ってしまう対応」について気が付いたことを書いてください。

5 これから、言葉掛けで意識していきたいことを書いてください。

〔揭示用資料〕

①

ねらい

子どもの批判に耳を傾けて、
子どもの感情を発散させながら、
子どもの批判する気持ちを収め
ることができるようにする。

②

傾聴スキルのポイント

- ① 批判に耳を傾ける
批判の理由を尋ねる。
授業中の場合は、後で聴くことを
約束する。

③

傾聴スキルのポイント

- ② 自分の怒りをコントロールする
「心の中で10まで数える。」
「深呼吸をする。」
「落ち着け！」
等、自分に指示を出し、理性的
判断ができるまでの時間を稼ぐ。

④

傾聴スキルのポイント

- ③ 言い分を知る
話をよく聴き、言い分を考える。
どうしてほしいか尋ねてもよい。

⑤

傾聴スキルのポイント

- ④ 言い分を受け入れる
「言いたいことは分かったよ。」
「ごめんね。そんな気持ちにさせて。」
「先生のやり方がまずかったね。」
等、状況に応じた言葉を伝える。

⑥

傾聴スキルのポイント

- ⑤ 言い分はどう対応するか示す
ア 言い分に応えられる場合
〔約束の表明〕+〔実行のとき〕
+〔実行の方法〕

イ 要求に応えられない場合
〔謝罪の言葉〕+〔断りの表明〕
+〔その理由〕+〔代替案の表示〕

聴き上手の先生になろう

ねらい

聴き手の姿勢や態度が、話し手の気持ちにどのように影響するのかを知り、子どもが話しやすい姿勢や態度を身に付ける。

【ポイント】

- ① 聴き手に徹する。
- ② 反射させながら聴く。
- ③ 身体で聴く。

準備 ワークシート，資料1，資料2，振り返り用紙

進め方

I ねらいを説明する

「きく」という漢字は、どう書きますか。「聞く」と「聴く」がありますね。では、どう違うか分かりますか。「聞く」は、音声は自然に耳に入ってくる時に使います。「聴く」はどうでしょう。音声を注意して耳に留めるときに使います。人の話を聞くときには、「聴く」の方がふさわしいですね。

教師が子どもの話を聴くという行為は、「情報を得る」ためだけでなく、子どもに「心理的報酬を与える」ということと、「子どもとの関係を安定させる」目的があります。相談者である子どもが「悩みを打ち明けたい」と思えるような姿勢や態度を身に付けましょう。

II スキルを説明する

① 聴き手に徹する

- ア 子どもの話は最後まで聴く。
- イ 話題を変えない（とらない）。
- ウ 話の途中で道徳的、論理的判断を口にしない。
- エ 子どもの感情を否定しない。
- オ 時間の圧力をかけない。

② 反射させながら聴く

子どもが伝えてきたメッセージの核心をそのまま返す。

③ 身体で聴く

資料1（P26）の聴くための非言語記号を使う。

III 演習をする

【場面設定例】

先生が、放課後、教室で仕事をしていると、生徒がやって来た。学級の友達からいじめを受けていることを先生に相談に来た。

「先生、相談があるのですが・・・」と言う。そのときの先生の反応は・・・

例1 偉そうな話の聞き方

生徒：先生、ちょっといいですか？

先生：何？ 今忙しいけど、ちょっとなら聞いてやってもいいぞ。

生徒：あの・・・私・・・ いじめられてて・・・

先生：ふうん、それで。 自分で解決できないのか。

生徒：(泣き出しそうになって) やっぱり、いいです。

例2 関心のない話の聞き方

生徒：先生、ちょっといいですか？

先生：何？ 今忙しいんだけど。(仕事をしながら)

生徒：あの・・・私・・・ いじめられてて・・・(泣き出しそうになる)

先生：ふうん、それで。(相談者の目を見ないで)

生徒：もう辛くて・・・

先生：それで。

例3 話のしやすい聴き方

生徒：先生、ちょっといいですか？

先生：何？ 今忙しいけど、ちょっとなら時間がとれるよ。どうした？

生徒：あの・・・私・・・ いじめられてて・・・(泣き出しそうになる)

先生：そうだったのか。いじめられていたのか。

生徒：もう辛くて・・・

先生：どんなふうに辛いのか先生に話してごらん。

- ① 三通りの先生の反応のデモンストレーションを見る。
- ② デモンストレーションについての感想を発表するよう促す。
- ③ グループになり、「話のしやすい聴き方」のシナリオを考え、シナリオ用紙に記入する。
- ④ 作成したシナリオを基に、役割分担してロールプレイをする。
- ⑤ ロールプレイをした感想を互いに話し合う。
- ⑥ 三組ぐらいに全体の前で演じるよう促す。
- ⑦ 資料2 (P27) の話のしやすい聴き方「かめうり」について知る。

IV 振り返りをする

- ① 話をしやすかったときは、教師がどんな姿勢や態度だったかを振り返る。
- ② 本時の活動を振り返り、感じたことや気付いたことを振り返り用紙 (P27) に記入し、数名に発表するよう促す。

留意事項

- デモンストレーションのときは、臨場感を出すような役割演技ができるようにする。
- ロールプレイの場面では、演技に対する抵抗も考えられる。(特に職場内の上下関係がからんでくる。) 批判的な態度や意見を控えることと、ロールプレイはあくまでも演技であるので、本時終了後に思い出して問い詰めることのないようにする。

成果

- 子どもと話をする際に、話題をとってしまふことがあったことに気付いた。
- 「話を聴く」という行為を改めて考え直すことができた。
- 傾聴や反射を意識して子どもと話をすることができた。

〔ワークシート〕

聴き上手の先生になろう

【場面設定例】

先生が、放課後、教室で仕事をしていると、生徒がやって来た。学級の友達からいじめを受けていることを先生に相談に来た。

「先生、相談があるのですが。」と言う。そのときの先生の反応は・・・

生徒 : 先生、相談があるのですが、ちょっといいですか？

先生 :

生徒 :

先生 :

生徒 :

先生 :

生徒 :

先生 :

生徒 :

〔資料 1〕

聴くための非言語記号

| 非言語記号 | 適切な使用 | 不適切な使用 |
|--------|----------------|--------------------------------|
| 動き | 子どもに近付く | 子どもから遠ざかる |
| 距離 | 腕を広げたくらいの距離 | 遠すぎる 近すぎる |
| 身体の向き | 子どもの方に向いている | 子どもの方に向いていない |
| 顔の高さ | 子どもの顔と同じ高さ | 子どもの顔より高い |
| 姿勢 | リラックスした姿勢 軽い前傾 | 緊張した姿勢 弛緩しきった姿勢 |
| 表情 | 話の内容とマッチした表情 | 無表情 過度に笑う |
| 視線 | 子どもの目を適度に見る | 子どもの目を見ない 過度に見る |
| うなずき | 適度にうなずく | 過度にうなずく うなずかない |
| 手や指の動き | ほとんど動かさない | 腕を組む 髪の毛をもて遊ぶ 顔や頭をかく 小物をいじる |
| タッチング | 話の内容によってはタッチング | 過度のタッチング 全くしない |

〔資料 2〕

話のしやすい聴き方 「かめうり」

1 「か」 = 身体の向き

身体の向きを子どもに向き合い、顔や表情をしっかりと見る。

子どもと向き合うことで相手に信頼感や安心感を与える。手を伸ばすと相手に触れるくらいの距離

2 「め」 = 目線

目線を穏やかに見守る。

温かいまなざしで、「あなたのことが気にかかっています」という心を伝える。

3 「う」 = うなづく

うなずき「うん、うん」やあいづち「そうなんだね」などをしながら聴く。

少し身を乗り出すようにして話を聴く。

4 「り」 = リラックス

リラックスした姿勢で聴く。(軽い前傾)

「あなたのことを一緒に考えていこう」という心のパワーを相手に伝える。

〔振り返り用紙〕

| 振り返り用紙 | |
|---|-------------|
| 1 「話を聴く」という行為について理解できましたか。 | |
| できた | だいたい できた |
| あまり できなかった | できなかった |
| 2 「傾聴スキル」について理解できましたか。 | |
| できた | だいたい できた |
| あまり できなかった | できなかった |
| 3 「傾聴スキル」を意識してロールプレイができましたか。 | |
| できた | だいたい できた |
| あまり できなかった | できなかった |
| 4 「反射」について理解できましたか。 | |
| できた | だいたい できた |
| あまり できなかった | できなかった |
| 5 この時間のトレーニングで、感じたことや考えたことを書きましょう。 | |
| <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> | |

話を聴こう

ねらい

ロールプレイを通して話を聴くときの自分のくせに気付き、話し手の思いを受け止められるような聴き方を身に付ける。

【ポイント】

- ① 非言語コミュニケーションを意識する。
- ② 聴き手に徹する。

準備 資料，ワークシート

進め方

I ねらいを説明する

私たちは、相手の話を聴く場面で、受容的に聴かなければならないと頭では理解していても、つい、相手の話以外に自分の意識を向けてしまったり、無関心な気持ちが自分の聴く態度に出てしまったりすることがあります。しかし、このような聞き方では、相手の本音を聞き出したり、相手の信頼を得たりすることは難しくなります。

今回は、ロールプレイを通じて、相手の話を聴くときの自分のくせに気付き、相手の話を上手に聴き出し、相手の気持ちや思いを傾聴できるような態度や聴き方を練習します。資料 (P30)

II スキルを説明する

① 非言語コミュニケーションを意識する

- ・相手に近づく。 ・軽い前傾姿勢になる。 ・アイコンタクト
- ・適度にうなづく。

② 聴き手に徹する

- ・途中で話を遮らない。 ・話題をとったり、変えたりしない。
- ・感情を否定しない。 ・非難や批判をしない。

III 演習をする

【場面設定例】

Aさんは、趣味・特技・旅行・最近楽しかったこと・腹がたったことなど、今、相手に聴いてほしい内容を2分間話す。

Bさんは、聴き役となる。

例1 Bさんは、関心のない話の聞き方で

Aさん：えっと、じゃあ、昨日のことなんですが・・・
Bさん：何？（目を合わせない。横向きでいる。）
Aさん：昨日、テレビを見ていたら・・・
Bさん：（貧乏揺すりをする。窓の方を見る。）
Aさん：たまたま、やっていたんですが・・・
Bさん：（胸を反りぎみにして、腕を組む。こわい表情で。）

※続きはアドリブで行いましょう。

例2 Bさんは、関心を示すような聴き方で

Aさん：えっと、じゃあ、昨日のことなんですが・・・
Bさん：昨日？（相手の目を見て、明るく言う。）
Aさん：ええ、昨日、テレビを見ていたら・・・
Bさん：うん、うん。（前傾姿勢で、うなづく。）
Aさん：たまたま、やってたんですが・・・
Bさん：うん、うん。（うなづく。）

※続きはアドリブで行いましょう。

- ① 二人組を作り、AさんとBさんの役になって例1を行う。2分間行ったら、役を交代する。
- ② 次に、例2を行う。2分間行ったら、役を交代する。

IV 振り返りをする

- ① 感じたことをワークシート（P31）に記入する。
- ② 感じたことを、一緒に演習を行った人と話し合う。

留意事項

- ロールプレイでは、日常の言葉遣いからかけ離れてしまわないようにする。
- 傾聴スキルの機能（①情報を得る ②心理的報酬を与える ③関係の安定）についても気付くようにする。
- 参加者の人数によっては、ロールプレイの際に二人の様子を見る観察者を設定し、ロールプレイ後に感想を話してもらう。

成果

- 傾聴の際は、非言語コミュニケーションが大きく影響することが理解できた。
- ロールプレイをすることで、話し手・聴き手・観察者のそれぞれの立場を体験することができた。

〔資料〕

傾聴スキル 話を聴こう

1 ねらい

ロールプレイを通して話を聴くときの自分のくせに気付き、話し手の思いを受け止められるような聴き方を身に付ける。

2 ポイント

- ① 非言語コミュニケーションを意識する。
 - ・ 相手に近付く
 - ・ 軽い前傾姿勢になる
 - ・ アイコンタクト
 - ・ 適度にうなづく
- ② 聴き手に徹する。

3 演習

場面設定

Aさんは、趣味・特技・旅行・最近楽しかったこと・腹がたったことなど、今、相手に聴いてほしい内容を2分間話す。

Bさんは、聴き役となる。

例1 Bさんは、関心のない話の聞き方で

Aさん：えっと、じゃあ、昨日のことなんですが・・・

Bさん：何？（目を合わせない。横向きでいる。）

Aさん：昨日、テレビを見ていたら・・・

Bさん：（貧乏揺すりをする。窓の方を見る。）

Aさん：たまたま、やっていたんですが・・・

Bさん：（胸を反りぎみにして、腕を組む。こわい表情で。）

※続きはアドリブで行いましょう。

例2 Bさんは、関心を示すような聴き方で

Aさん：えっと、じゃあ、昨日のことなんですが・・・

Bさん：昨日？（相手の目を見て、明るく言う。）

Aさん：ええ、昨日、テレビを見ていたら・・・

Bさん：うん、うん。（前傾姿勢で、うなづく。）

Aさん：たまたま、やっていたんですが・・・

Bさん：うん、うん。（うなづく。）

※続きはアドリブで行いましょう。

〔ワークシート〕

実施日 月 日 (曜日) 時 分～ 時 分

話を聴こう ワークシート

I～III メモ欄

IV 振り返り

1 例1のとき、どう感じましたか？

2 例2のとき、どう感じましたか？

3 本日の研修を行ってみて、どう感じましたか？

記入者氏名

話を聴く姿勢を身に付けよう

ねらい

教師は話を聴いている、という姿勢が、子どもに伝わるような話の聴き方を身に付け、様々な情報を子どもの話を通して得ることができるようにするとともに、子どもとの人間関係を深めることができるようにする。

【ポイント】

非言語コミュニケーションに気を付ける。

準備 提示資料、ワークシート

進め方

I ねらいを説明する

聴こうとする姿勢が伝わってこない相手に対して、話をすると、話し手はどのように感じるのかをまず体験してみましょう。

【ロールプレイ】

二人一組になり、話す側、聴く側に役割を分担する。話す側は最近あった出来事の話すが、聴く側は目を合わせず、うなずかず、極力無関心な態度を取る。時間になったら役割を交換して再度行う。

(時間：各2分間)

職員室にきた子どもの話を、仕事をしながら、向き合わずに聞いてしまったり、廊下で声を掛けてきた子どもの話を、振り返らずに聞いてしまったり、という光景を時折見かけますが、教師の、話を聴いているという姿勢は、子どもに伝わっているのでしょうか。

今回は、相手に聴いているという気持ちが伝わる具体的な行動のポイントを押さえ実現できるようにしましょう。

II スキルを説明する

○ 非言語コミュニケーションに気を付ける

相手に聴いているという気持ちが伝わる具体的な行動のポイントを示す。

せっかく、自分に聴く気持ちがあっても、それが子どもに伝わらなければ、教師側からすると、聴く気がない教師となってしまう。視線や姿勢、表情、うなずきなど適切なタイミングで行うことで、相手に聴いているという気持ちが伝わる聴き方を身に付ける。(ワークシートに記入しながら進める。)

聴き方のポイント

- ・アイコンタクト－視線を合わせる。(合わせすぎると圧力になるので注意が必要)
- ・座る位置－正面～お互いにやや斜めになる位置(子どもの特性に合わせる。)

- ・姿勢―身を乗り出すくらいの気持ちで構える。
- ・声の調子、顔の表情―話の内容に合わせる。
- ・子どものペースに合わせる―話を遮ったり、話題を取ったりしない。
- ・話を促す―うなずく、微笑む、あいづちを打つなどして話を進める。

Ⅲ 演習をする

【場面設定】

生徒Aさんは最近、部活動で同級生との関係がうまくいかずに悩んでいる。そのことを担任の教師に相談に行った。

例 このように聴いてみましょう

生徒A：先生、ちょっと相談があるんですが。
 先生：どうした？（振り返って、視線を合わせる。）
 生徒A：実は、部活のことなんですけど、最近行きづらくて。
 先生：行きづらい？（少し前寄りに体を乗り出して）
 生徒A：なんか自分だけ浮いちゃってるんですよね・・・。
 先生：それは心配だなあ。（近寄って目と目を合わせる。）

- ① 話す側、聴く側の役割を分担する。
- ② 聴き方のポイントを参考に意識したい点を3つ挙げてワークシートに記入する。
- ③ 自分の聴く態度を意識しながら、話を進める。
- ④ お互いに交換して続ける。（時間：3分程度）
- ⑤ お互いに感じたことについて話し合う。特に、生徒A役が、先生役のどのような態度に「聴いてもらえている」と実感できたかを確認する。

Ⅳ 振り返りをする

- ① 聴き方のポイントとなっている項目を実践できたか。
- ② 今後話を聴く上で特に気を付けていきたい点は何か。

留意事項

- 演習の中で、ロールプレイに慣れていない場合は、最近のうれしかった出来事を話したり、話しやすいリアルな話題で会話したりする中で聴く態度を身に付ける。
- 演習の際に、人数に余裕があれば観察者を設定し、聴き方のポイントを押さえて話を聴くことができているかどうかをチェックしてもよい。
- スキルの定着へ向けて、ある程度の期間ごとに、ワークシートを見返して、聴き方のポイントを押さえながら聴くことができているかを確認する。

成果

- 自分主導で話をしがちなところがあり、今回の研修で相手が話したいことをくみ取るために意識的に心掛けていくことを学ぶことができた。
- 普段一人では気付けない「聴く姿勢」を再確認できた。

〔提示資料〕

①

**話を聴く姿勢を
身に付けよう**

②

○ **体験してみましょう。**
話し手、聴き手に分かれず。
聴き手の教師は

- ・目を合わせない
- ・うなずかない
- ・その他極力無関心な態度を取る

話し手の教師は最近の出来事を話してみてください。

③

○ **こんなことはありませんか？**

相手に、聴いている姿勢が伝わる聴き方とはどんな聴き方でしょうか。

④

非言語コミュニケーションの聴き方のポイントは次の6つです。

- ①アイコンタクト…視線を合わせる。
(直視しすぎると圧力を感じることもあるので注意が必要)
- ②座る位置…正面～お互いにやや斜めになる位置
(子どもの特性に合わせる。)
- ③姿勢…身を乗り出すくらいで

⑤

④ 声の調子、顔の表情…話の内容に合わせて。
⑤ 子どものペースに合わせて…話を遮ったり、話題を取ったりしない。
⑥ 話を促す…うなずく、微笑む、あいづちを打つなどして話を進める。

では、今日は特にどこに注意しながら、話を聴きましょうか？

⑥

○ 「聴いてもらえている」と感じることができましたか？
話し手役の教師は、どのような点で、「聴いてもらえている」と感じ取ったのか、具体的な行動を聴き手役の教師に伝えてください。

〔ワークシート〕

- 聴こうとする姿勢が伝わってこない相手に対して、話をすると、どのように感じましたか？

- 聴いている姿勢が相手に伝わる聴き方のポイント

- ① アイコンタクトー () (合わせすぎると圧力になるので注意が必要)
- ② 座る位置ー () になる位置 (子どもの特性に合わせる。)
- ③ 姿勢ー () くらい。
- ④ 声の調子, 顔の表情ー () に合わせる。
- ⑤ 子どものペースに合わせるー () たり, () たりしない。
- ⑥ 話を促すー (), (), () などして話を進める。

- 私は今日, ここにポイントを置いて話を聴きます。

①

②

③

- 聴き手の教師のここがよかった。

- 今後気を付けていきたい聴き方のポイント

心理的報酬を与えながら聴こう

ねらい

子どもの話を「傾聴的姿勢で聴く」ことを身に付ける。

【ポイント】

- ① 自分の印象を意識する。
- ② 面接場面を考える。
- ③ 傾聴的態度と非傾聴的態度を確認する。

準備 プリント、チェックシート、メジャー

進め方

I ねらいを説明する

- ① 子どもたちは教師の雰囲気をつかむのがとてもうまく、話しやすい教師かそうでないかを、見分けます。雰囲気を作っているのは、教師の外見や服装、表情、身振り手振りや具体的な個々の動作で、その総体が一人の教師の雰囲気を作り上げていきます。ということは、それらを変えることによって、雰囲気を変えることもできるということになります。それを「印象管理（インプレッション・マネジメント）」と言います。例えば、低学年担当の小学校の教師が、子どもたちが喜びそうな色の服を着て学校に行く等です。少なくとも子どもたちが警戒心や不安を感じずに安心して話し掛けられる雰囲気は必要なもので、これを機会に少し点検をしてみましょう。
- ② 次に、私たちの仕事の中で、子どもの話を聴くことは子どもを理解するために大切なことです。面接は、じっくりと子どもと関わる大切な時間です。しかし、教師の聴き方は様々で、教師からの質問に終始し、子どもに「自由に話せなかった。」と感じさせることはないでしょうか。中には説教になってしまうこともあります。教師の聴く態度も様々です。

子どもの話を聴くことは、「先生に自分の話を聴いてもらった。」という心理的報酬を与える行為です。「聴く」ことで、子どもに安心を与え、満足感を与えることができます。そこで、この時間は、子どもの気持ちをしっかり聴くための姿勢について練習をします。

II スキルを説明する。

- ① **自分の印象を意識する**
教師自身の雰囲気を子どもの立場でモニタリングする。
- ② **面接場面を考える**
面接場面で、座る距離や位置関係をどのように配慮すると、子どもたちが警戒心や不安を感じずに、安心して話し掛けられる雰囲気になるか考える。
- ③ **傾聴的態度と非傾聴的態度を確認する**
「非言語記号と準言語の項目チェック」プリント（P38）を確認しながら、傾聴的態度（「話を聴こう」という態度）とはどのようなものかを確認する。傾聴的態度と非傾聴的態度（「話を聴きたくない」という態度）を極端にして、子ども側の気持ちを感じ取る。

Ⅲ 演習をする

【場面設定例】

あまり自分のことを話すのが得意でないAさんが、昼休みに「先生、話したいことがあるんですけど。」とやって来た。

- ① ウォーミングアップ（3分）
 - ・二人組になる。（参加者が奇数の場合は一人は観察者となる。）
 - ・誕生月を聞く。誕生月が早い方が先出し、遅い方が後出しになる。「後出し負けジャンケン（先出しに負けるように後出しは出す。）」を30秒間続ける。役割を交代して30秒間続ける。間違えた回数が多い人が負け。
- ② 面接の位置と角度・距離・視線についての様々な体験をする。
 - ア 椅子のみを使って
二つの椅子に二人が座る位置が、A正面・B斜め・C並列でどういう感じがするか、感想を述べ合う。また、A正面・B斜め・C並列で実際に「適当」と思う距離をメジャーで測ってみる。
 - イ 机やテーブルを使って
アと同じように、A正面・B斜め・C並列でどういう感じがするか、感想を述べ合う。（何がよい・悪いではなく、どんな内容のときはどんな位置がよいか考える。）同じく距離も測ってみる。
- ③ 非傾聴的態度と傾聴的態度でロールプレイを試してみる。
 - ・先生役と生徒役を決め、非傾聴的態度で、先生役は5分間生徒役の話をお聴く。（表1「非言語記号と準言語の項目チェック」参照）
 - ・同じ先生役と生徒役で今度は傾聴的態度で、同じく5分間生徒役のお話を聴く。（表1「非言語記号と準言語の項目チェック」参照）
 - ・先生役と生徒役を交代して、非傾聴的態度と傾聴的態度で、同じく5分間ずつ話を聴く。
- ④ チェックシートを記入し、感想を述べ合う。
（観察者がいる場合は、観察者も感想を言う。）

Ⅳ 振り返りをする

- ① 自分の雰囲気やモニタリングできたか。
- ② 座る距離や位置関係によって、子どもとの心理的な距離が違ふことが実感できたか。
- ③ 非傾聴的態度で話を聴かれると心を閉ざすことを実感し、自分が傾聴的態度で聴けているか確認する。チェックシートに記入する。

留意事項

- 距離が遠いことが悪いわけではなく、人間関係によって心地よい距離等が違ふことが理解できるようにする。
- 今後、目的に応じて適切に座る距離や位置を選択できるようにする。
- 傾聴的な態度を、客観的に「態度」として意識して身に付ける。写真や鏡等を用いてもよい。

成果

- 「目的や人間関係によって、面接場面を意図的に作り上げる。」ということが学べた。
- 傾聴的な態度と非傾聴的な態度を比較することにより、子どもの視点でその感じを体感することができ、自分の聴き方を確認するよい機会になった。

[プリント]

図1 距離と位置関係による心理的距離

- ①座る距離－近付きすぎると生徒に圧迫感を与え、離れすぎると親近感が湧かない。
- ②位置関係（椅子と机がある場合）－机がないと心理的距離は近くなる。

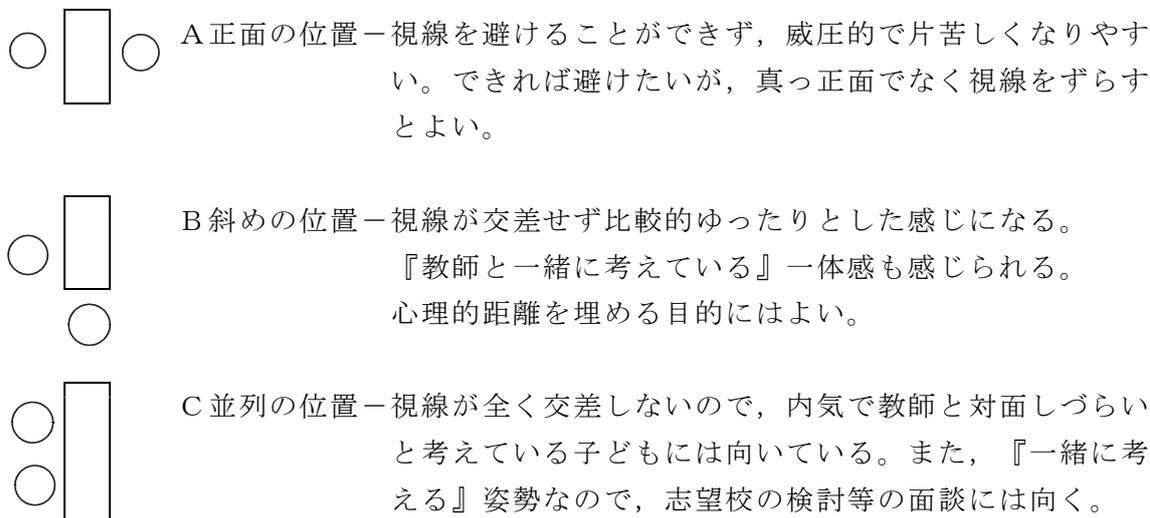


表1 非言語記号と準言語の項目チェック

| | 項目 | 適切な使用 | 不適切な使用 |
|-------|--------|----------------------|-----------------------------|
| 非言語記号 | 動き | 子どもに近付く | 子どもから遠ざかる |
| | 距離 | 腕を広げたくらいの距離 | 近すぎる／遠すぎる |
| | 位置 | 斜め前 | 正面 |
| | 身体の向き | 子どもに向いている | 子どもに向いていない |
| | 顔の高さ | 子どもの顔と同じ高さ | 子どもより高い |
| | 姿勢 | リラックスした姿勢、軽い前傾 | 緊張した姿勢／後傾 |
| | 表情 | 話の内容とマッチした表情 | 無表情／過度に笑う |
| | 視線 | 子どもの目を適度に見る | 子どもの目を見ない／過度に見る |
| | うなずき | 適度にうなずく | 過度にうなずく／うなずかない |
| | 手指の動き | ほとんど動かさない | 腕を組む／髪の毛をもて遊ぶ／顔や頭をかく／小物をいじる |
| | タッチング | 話の内容によってはタッチング | 過度のタッチング／全くしない |
| 準言語 | 声の高さ | 適度な高さ／安定している | 場面によって差がある／不安定 |
| | 話す速さ | 速すぎず遅すぎず | 早口／遅すぎ |
| | 声の大きさ | 大きすぎず小さすぎず | 大きい／小さい |
| | 沈黙・間合い | 適度に反応している／適度な間をとっている | 沈黙に絶えられないで話す／間が開きすぎ／たたみかける |

(先生のためのソーシャルスキル サイエンス社 著者 相川 充を参考)

[チェックシート]

傾聴的態度の評価表

先生役 () 生徒役 () 評価者 ()

☆ 各項目の線の上の適当と思う所に○を付けてください。

| | よ 4 | い 3 | まあよい 2 | 多少気になる 1 | 気になる |
|----------------|--------|--------|-----------|-------------|------|
| 1 相手との距離 | | | | | |
| 2 身体の向きと動き | | | | | |
| 3 家具（机等）の利用 | | | | | |
| 4 座った姿勢 | | | | | |
| 5 視線の交合 | | | | | |
| 6 顔の表情 | | | | | |
| 7 手や指の動き・ゼスチャー | | | | | |
| 8 両脚の位置 | | | | | |
| 9 声の大きさ・高さ | | | | | |
| 10 話し方・速さ | | | | | |
| 11 うなずき | | | | | |
| 12 間合い・沈黙への対応 | | | | | |
| 13 活力エネルギー | | | | | |

14 演習をしてみたの感想を書いてください。

自分の思いを相手に伝えよう①

ねらい

子どもと関わる場面において、教師側の思いを子どもに伝えるようにする。

【ポイント】

* 自分の思いを子どもに伝える言葉・・・「私」メッセージ

① 意味的主語が「私」 ② 肯定的に言う。 ③ できるだけ感情を伝える。

準備 ワークシート（演習例①、演習例②）、拡大掲示物用資料

進め方

I ねらいを説明する

私たちは子どもと関わる場面で、子どもが規範意識に欠ける行動をとった場合など、その行動をやめさせることばかり考え、一方的に指導することがあります。当然、そのような指導が必要な場面もありますし、効果的な時もあります。しかし、時に子どもは素直に注意を受け入れることができなかつたり、その場はやめるが、根本的な理解はしておらず、また同じ行動を繰り返したりすることがあります。また、感情的な指導になると更に逆効果になることもあります。

子どもたちの行動を正し、よい方向に導きたいという思いは、私たち誰もがもっています。そこで、子どもをよくしたいという思いを児童に伝え、受け入れてもらえることができるような話し方や言い方の練習をします。

II スキルを説明する

① 意味的主語が「私」

授業中、子どもが騒いでいる場面において、教師は、「子どもたちが騒いでいるので指示が通らない。大丈夫かな。心配だな。」という思いをもっている。その思いを伝えるとき・・・

○ 「いつまでも騒いでいるんじゃないですね。」・・・（「あなた」メッセージ）

○ 「騒いでいて大丈夫？先生は心配だな。」・・・（「私」メッセージ）

*あなたメッセージでは「心配である。」という思いは伝わらない。

*「私」メッセージにすると「心配である。」という感情が伝わる。

② 肯定的に言う

例えば、ある問題を子どもたちに解かせてから休み時間にしたい場合

○ 「この問題ができるまでは休み時間にしませんよ。」（否定的な言い方）

○ 「この問題ができたなら休み時間にしましょう。」（肯定的な言い方）

③ できるだけ感情を伝える

例えば、子どもたちが仲よく遊んでいて、自分の感情を伝える場合

○ 「仲よくできて偉いね。」・・・評価

○ 「仲よくできて偉いね。先生もうれしい。」・・・評価＋感情

演習例①

Ⅲ 演習をする

【場面設定例】

Aさんは自己中心的で、普段から規則を守れないことがある。授業中もふざけて集中できないことがあり、まわりに対しての影響力もある。

今日も授業中、学級の何人かの児童を巻き込んで話をしてしまい、学級全体が落ち着かなくなった。そのことを指導するために休み時間に担任がAさんと呼んだ。

例1 「あなた」メッセージ

先生：何で授業中におしゃべりするんだ。

児童：……………。

先生：あなたがしゃべると学級全体も落ち着かなくなるんだ。他の人にも迷惑をかけているんだぞ。どうして、いつもしゃべってしまうんだ。

児童：だって授業が分からないんだもん。

先生：しゃべっているから分からないんだろう。

例2 「私」メッセージ

先生：どうしたの。さっき、授業中おしゃべりしていたけど……………。

児童：……………。

先生：おしゃべりしていて、授業は大丈夫？分からなくなってしまう？そのことが先生はとても心配です。

児童：どうせ分からないし。

先生：そうかあ……でもこのまま分からないところをそのままにしておくことも心配です。どの部分が分からないのかな。教えてもらえると先生はうれしいなあ。

児童：ううん……どこが分からないかも……………。

先生：そういえばAさんはこの前〇〇のテストすごくがんばったじゃない。先生すごいなあと思ったんだよ。うれしかったなあ。

- ① ブレインストーミングを行う。
- ② ロールプレイを行う。

Ⅳ 振り返りをする

- ・自分の思いを素直に伝える方法について確認し、ワークシート（P43）に記入する。

留意事項

- 演習時は内容や言葉遣いなど子どもの日常生活からかけ離れないよう注意をする。
- 「あなた」メッセージと「私」メッセージについて子どもの受け止め方が違うことが分かり、「私」メッセージのよさに気付けるようにする。

成果

- 普段の子どもに対する関わり方を振り返るよい機会となり、「私」メッセージのよさに気付くことができた。
- ロールプレイを行うことにより、子どもの気持ちを理解することができ、教師が子どもに言葉掛けをする場合、慎重にならなければいけないことを認識できた。

演習例②

Ⅲ 演習をする

【場面設定例①】

AさんとBさんは遊びに夢中になりすぎ、授業開始の時間ぎりぎりに教室に戻って来ることが多い。今日は授業が始まってしまい、いつもよりも教室に戻って来るのが遅かった。

例1 こんな言い方をしていませんか

先生：また、おまえらか。今何時だと思っているんだ。もう、授業始まっているぞ。

児童A：すみません。

先生：すみませんじゃないよ。いつもそうなんだから。

児童B：Aさんが足が痛いって言うから、保健室に行って来ました。

先生：さっきまで元気に遊んでいたのに。本当は勉強したくないんじゃないの？

例2 こんな言い方をしてみませんか

先生：今日はやけに戻ってくるのが遅いけど、どうしたの？何かあったのか？

児童B：Aさんが足が痛いって言うから保健室に行ってきました。

先生：Aさん、大丈夫か？さっきまで元気に遊んでいたようだけど。

児童A：はい、朝から少し痛かったんです。

先生：そうか。あまり走り回らない方がいいね。もっとひどくなると心配だな。

① ロールプレイをする。

② ブレインストーミングを行う。(例1と例2について)

【場面設定例②】

Cさんはわがままなところがあり、自分の思うままに行動しがちである。周りの児童も影響され、悪いことでも一緒になってやってしまう傾向にある。

今日は掃除の時間にほうきをバットのように振り回していた。その場では注意をしたが、このところの行動が気になった先生は、昼休みにCさんを指導するために呼び出した。

① セリフをワークシート (P44) に書く。

② ロールプレイを行う。

Ⅳ 振り返りをする

- ・自分の思いを素直に伝える方法について確認し合い、振り返りカードに記入する。

留意事項

- 「あなた」メッセージと「私」メッセージについて子どもの受け止め方が違うことが分かり、「私」メッセージのよさに気付けるようにする。

成果

- 「私」メッセージのよさに気づき、子どもとの関わりの中で実践していこうという気持ちになった。
- 1回目の「私」メッセージの研修後に意識して使うようにした。2回目の研修を終え、更に理解を深められたので、今後も実践していこうという気持ちが強まった。

〔ワークシート〕（演習例①）

自分の思いを相手に伝えよう①

1 Iについて（メモ）

2 IIについて（メモ）

3 IIIの「あなた」メッセージについて気が付いたことを書いてください。

4 IIIの「私」メッセージについて気が付いたことを書いてください。

5 これからの言葉掛けで意識していきたいことを書いてください。

〔ワークシート〕（演習例②）

自分の思いを相手に伝えよう①

【場面設定例②】

Cさんはわがままなところがあり、自分の思うままに行動しがちである。周りの児童も影響され、悪いことでも一緒になってやってしまう傾向にある。

今日は掃除の時間にほうきをバットのように振り回していた。その場では注意をしたが、このところの行動が気になった先生は、昼休みにCさんを指導するために呼び出した。

* 「私」メッセージを意識したセリフを書いてみてください。

先生：

児童C：

○これからの子どもへの言葉掛けで意識していきたいことを書いてください。

〔拡大掲示物用資料〕 場面設定例①

AさんとBさんは遊びに夢中になりすぎ、授業開始の時間ぎりぎりに教室に戻って来ることが多い。今日は授業が始まってしまい、いつもよりも教室に戻って来るのが遅かった。

<こんな言い方をしていませんか>

<こんな言い方をしてみませんか>

先生：また、おまえらか。今何時だと思っているんだ。もう、授業始まってぞ。

児童A：すみません。

先生：すみませんじゃないよ。いつもそうなんだから。

児童B：Aさんが足が痛いって言うから、保健室に行ってきた。

先生：何かしたの？

児童A：朝から足が少し痛かったから。

先生：さっきまで元気に遊んでいたのにおかしいよね？本当は勉強したくないんじゃないの？こんな状態では、勉強が遅れちゃうぞ。おまえ達はそれでいいのか？

先生：今日はやけに戻ってくるのが遅いけど、どうしたの？何かあったのか？

児童B：Aさんが足が痛いって言うから保健室に行ってきました。

先生：Aさん、大丈夫か？さっきまで元気に遊んでいたようだけど。

児童A：はい、朝から少し痛かったんです。

先生：そうか。あまり走り回らない方がいいね。もっとひどくなると心配だな。

児童A：はい。

先生：遅れた理由は分かったけど、これからは、授業時間には遅れないよう戻って来てほしいね。先生は、君たちがいなくてとても心配したよ。授業も始められなくて、先生は困ってたんだ。



【モデリング】



【ロールプレイ】

自分の思いを相手に伝えよう②

ねらい

自分の言いたいことや気持ちを相手に受け入れてもらえる話し方、言葉掛けができるようにする。

【ポイント】

- ① 相手の目をきちんと見る。
- ② 自分の気持ち（感情）を、「私は・・・」になるような言い方で伝える。
- ③ 肯定的な言い方をする。

準備 ワークシート、配付資料

進め方

I ねらいを説明する

私たちは時々、自分の思いをうまく相手に伝えられずに誤解を招き、反感をかって関係が悪くなってしまうことがあります。「こんなに心配してあげているのに・・・。」「なんで分かってくれないの・・・。」とモヤモヤした気持ちになることも結構多いのではないのでしょうか。そこで、今日は、子どもたちや保護者とよりよい関係を築くために、自分の言いたいことや気持ちを相手に受け入れてもらえる話し方、言葉掛けができるように、話し方、言い方の練習をします。

II スキルを説明する

① 相手の目をきちんと見る

思いを伝えたい子どもに近付き、身体を子どもの方に向け、顔の高さ（目線）を同じにする。

② 自分の気持ち（感情）を、「私は・・・」になるような言い方で伝える

ア 意味的な主語が「私」になるような言い方を「私」メッセージという。「私」メッセージを発信するときは、子どもたちの言動のうち、何が教師にとって問題なのか、何が受け入れがたいのかを表現する。（原因）

イ その事実が教師に及ぼす影響を具体的に述べる。（結果）

ウ 教師自身の内部に起こっている思いや感情を率直に述べる。（感情）

③ 肯定的な言い方をする

「原因」＋「結果」＋「感情」＋「依頼の言葉」を基本形とし、肯定的な表現で伝える。

・「うるさくしないでほしい。」 → 「静かにしてほしい。」

・「遅刻しないでほしい。」 → 「時間を守ってほしい。」 など

III 演習をする

【場面設定例①】

いつも落ち着きがなく、よく注意を受けるAさん。昼休みに廊下を走っているのを見かけた先生は、Aさん呼び止めて指導する。

例1 こんな言い方をしていますか

先生：Aさん。止まりなさい。廊下を走ってはいけません。
児童A：だって先生，違うんだよ。
先生：違わないよ。走ってるだろ。
児童A：そうじゃなくて，大変なんだよ。
先生：そうだよ。廊下を走るのは大変なことだよ。
児童A：そうじゃないって・・・。
先生：おまえはいつも落ち着きがないんだよ。廊下は走る所じゃない。走りたかったら，外で元気に走ればいけないか。

例2 こんな言い方をしてみませんか

先生：Aさん。止まりなさい。廊下を走ってはいけません。
(危ないので，まずは止める。)
児童A：だって先生，違うんだよ。
先生：違うって，どうしたの？
児童A：弟がけがをして保健室に行ったって聞いたから，心配なんだよ。
先生：そうなのか。それは心配だね。
児童A：だから急いで行きたいんだよ。
先生：Aさんはやさしいね。走った理由は分かったけど，廊下を走ると危ないよ。先生は，Aさんがけがをするんじゃないかって心配したよ。だから，廊下を歩こうね。
児童A：分かりました。ごめんなさい。

① ブレインストーミングを行う。

ア 例1の言い方をされて，どう感じたかを話し合う。

イ 例1と例2の違いを話し合う。・・・(ポイントの再確認)

② ロールプレイを行う。

【場面設定例②】

Bさんは学級の中では運動能力も高く，活発な児童だ。やや強引なところもあり，他の児童たちは暴力をふるわれるのではないかと不安で，Bさんに対して「嫌だ。」という意思表示ができず，内心では一緒に活動したくないと思っている。そのため，学級の中にはBさんと本当に仲のよい友達はいない。担任は，こんなBさんをととても心配している。

ある日，Bさんが休み時間にCさんにちょっかいを出し，ふざけ合いがエスカレートし，Cさんを泣かせてしまった。担任はBさんに声を掛けた。

① セリフをワークシート(P48)に書く。

② ロールプレイを行う。

IV 振り返りをする

・感じたことをワークシートに記入するとともに，感じたことを発表し合う。

留意事項

- 自分の気持ちを伝えるために，感情語(P49)を意識的に使うようにする。
「私は悲しいな。」，「私はとてもうれしいよ。」，「私は残念に思う。」，「私は不安だ。」
等

成果

- 子どもに対し，肯定的な言い方を考えることを通して，日頃の自分の対応を振り返ったり，反省したりすることができた。

[ワークシート]

自分の思いを相手に伝えよう②

○ <ポイント>

- ① 相手の目をきちんと見る。
- ② 自分の気持ち（感情）を、「私は・・・」になるような言い方で伝える。
- ③ 肯定的な言い方をする。

○ こんな時、どう言いますか？ セリフを考えてみましょう。

<場面設定例②>

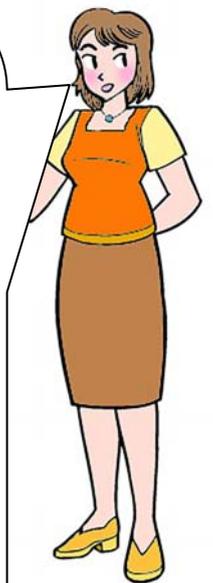
Bさんは学級の中では運動能力も高く、活発な児童だ。やや強引なところもあり、他の児童たちは暴力をふるわれるのではないかと不安で、Bさんに対して「嫌だ。」という意思表示ができず、内心では一緒に活動したくないと思っている。そのため、学級の中にはBさんと本当に仲のよい友達はいない。担任は、こんなBさんをととても心配している。

ある日、Bさんが休み時間にCさんにちょっかいを出し、ふざけ合いがエスカレートし、Cさんを泣かせてしまった。担任はBさんに声を掛けた。

先生：

先生：

先生：



○ ロールプレイをやってどう感じましたか。

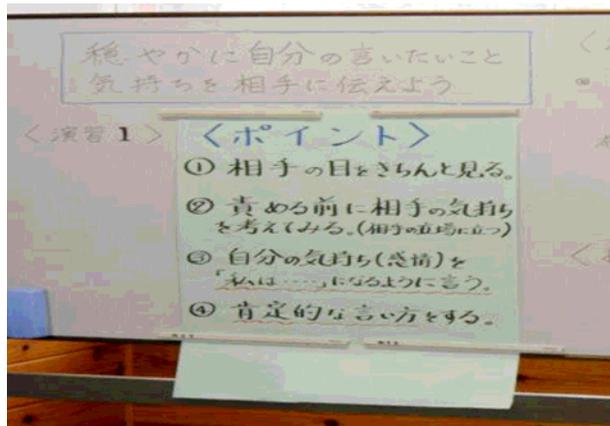
| | とても | まあまあ | あまり | まったく |
|-----------------------------|-----|------|-----|------|
| ① 「私」メッセージを意識して、ロールプレイができた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ② 自分の気持ちを伝える言い方のポイントが分かった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③ これからは、「私」メッセージを使っていこうと思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

〔配付資料〕

※自分の気持ちを表現するために使ってみましょう。

【 いろいろな 感情語 】

| | | | | |
|--------|--------|--------|------|-----|
| うれしい | 気持ちがいい | ありがたい | 楽しい | |
| 満足だ | わくわくする | うらやましい | 安心だ | |
| 爽快だ | ほこらしい | すがすがしい | 幸せだ | |
| ドキドキする | いらいらする | すっきりした | | |
| びっくりした | せつない | 憂うつだ | 緊張した | |
| はずかしい | 嫌だ | 不安だ | つらい | 心配だ |
| 涙が出そう | さみしい | 怖い | 困った | |
| ショックだ | くやしい | がっかりした | とまどう | |
| かなしい | 残念だ | | | |



【板書例】



【セリフを考える】



【ロールプレイで確かめる】

自分の思いを上手に伝えよう ～「私」メッセージ～

ねらい

教師が自分の思いを素直に伝えることで、子どもの自律的な思考を促す。

【ポイント】

- ① 意味的主語が「私」
- ② 肯定的に言う。
- ③ 感情を伝える。

準備 ワークシート、振り返り用紙

進め方

I ねらいを説明する

私たち教師は、子どもを注意するとき、「○○しなさい。」とよく言います。それは、「あなた（子ども）が、○○しなさい。」というようにすべて意味的主語が「あなた」になるので「あなた」メッセージと言います。「あなた」メッセージは、「問題の原因はあなた（子ども）にある。」と言っているメッセージです。

それに対して、「私」メッセージは、「私（先生）は、○○が気になっている。」というように意味的主語が「私」（先生）であり、子どもは責められているとは感じません。例えば、授業中におしゃべりしている子どもに対して、「静かにしなさい。」と言うと、「問題の原因は、あなたのおしゃべりだ。」と言うメッセージになり、子どもを責めることとなります。ところが、「私（先生）は、おしゃべりが気になります。」と言うと、子どもは責められたという気持ちにならず、教師に対する否定的な評価にはつながりません。さらに、「原因」、「結果」、「感情」の順でメッセージを発すると教師の思いは伝わります。例えば、授業中おしゃべりをしている子どもへの言葉掛けは、「おしゃべりをしている人がいると、（原因）先生は、気になって授業ができないんだ（結果）。せっかく分かりやすく教えようとしているのに・・・悲しくなるな（感情）。」となります。そこで、今日は、教師が、自分の思いを素直に伝えることができるスキル、つまり「私」メッセージについて練習してみたいと思います。

II スキルを説明する

- ① 意味的主語が「私」
 - ・「静かにしなさい。」ではなく、「騒いでいて大丈夫？先生（私）は、心配だ。」
- ② 肯定的に言う
 - ・「○○しないでほしい。」→「○○してほしい。」
 - ・「遅刻するな。」→「時間を守ってほしい。」
- ③ 感情を伝える
 - ・「○○できて偉いね。先生はうれしい。」など、評価＋感情を伝える。

Ⅲ 演習をする

【場面設定例】

最近、遅刻をして登校することが多くなった生徒がいる。担任の先生は、朝、昇降口でその生徒が来るのを待つことにした。すると、今日も遅刻してやってきた。そのとき、先生はどんな言葉を掛けますか？

例1 「あなた」メッセージ

先生：遅いぞ。

生徒：（先生の声を聞いて急ぐ。）

先生：この頃、遅刻ばかりじゃないか。何やってんだ。どうせ昨日も、夜遅くまでテレビでも見ていたんだろう。

生徒：あっ・・・，いいえ・・・

先生：じゃあ、ゲームでもやっていたのか。とにかく明日遅刻したら許さないからな。

生徒：はい。（うつむきながら教室へ向かう。）

例2 「私」メッセージ

先生：おはよう。欠席じゃなくてよかったよ。

生徒：おはようございます。

先生：この頃、遅刻が目立つけど、何かあったのか？

生徒：はい。母が体調を悪くして・・・

先生：そうだったのか、お母さんの体調が悪いのか。それは心配だな。

生徒：はい。だから朝ご飯は自分で作っているんです。

先生：自分で作っているのか。偉いなあ。先生は感心したよでも、先生は、朝、登校時刻になってもあなたの姿が見えないので登校途中で事故にあっているんじゃないかと心配していたんだよ

生徒：すみません。明日からは、間に合うようにします。

- ① 「あなた」メッセージで生徒へ言葉を掛けたときのデモンストレーションを見る。
- ② 「私」メッセージで生徒へ言葉を掛けたときのデモンストレーションを見る。
- ③ ①と②のデモンストレーションを見た感想を述べる。
- ④ ワークシート（P52）を使って担任の先生になったつもりで生徒に掛ける言葉を考える。
- ⑤ 二人組になり、④で考えたセリフを基に先生と生徒の役割に分かれてロールプレイを行う。（役割を交代する。）
- ⑥ ロールプレイをした感想を発表する。

Ⅳ 振り返りをする

- ① 本時の活動で感じたことや気付いたことを振り返り用紙（P53）に記入する。
- ② 数名に発表するよう促す。

留意事項

- デモンストレーションのときは、臨場感を出すような役割演技ができると効果的であり、「私」メッセージを意識してロールプレイを行うようにする。
- 三つの要素「原因」「結果」「感情」を意識して「私」メッセージを考える。

成果

- 「私」メッセージと「あなた」メッセージの違いについて知ることができた。
- 日常的な場面設定だったので、具体的に子どもとの会話を考えることができた。

〔ワークシート〕

「私」メッセージを考えよう

| | | | |
|----|---|-------|---|
| 先生 | : | おはよう。 | |
| | | | ↓ |
| 生徒 | : | | |
| | | | ↓ |
| 先生 | : | | |
| | | | ↓ |
| 生徒 | : | | |
| | | | ↓ |
| 先生 | : | | |
| | | | ↓ |
| 生徒 | : | | |
| | | | ↓ |
| 先生 | : | | |
| | | | ↓ |
| 生徒 | : | | |
| | | | ↓ |

名前 ()

前向きに伝えよう

ねらい

日常の子どもへの接し方を振り返り、自己を理解し、子どもへの理解を深め、前向きな人間関係をつくる会話を考えることができるようにする。

【ポイント】

- ① 「私は・・・」のように、意味的主義が「私」となるように言う。
- ② 肯定的に言う。
- ③ 感情を伝える。

準備 資料，ワークシート

進め方

Ⅰ ねらいを説明する

教師は子どもを指導する場面で、望ましくない行動をやめさせることばかりを考え、一方的な指導をしてしまうことがあります。学校生活の中ではそのような指導が必要で効果的な場合もあります。しかし、子どもが素直に指導を受け入れることができなかつたり、その場は止めても、根本的な理解をしていないために同じ行為を繰り返してしまったりすることがあります。また、教師が感情的に指導してしまうと逆効果になることもあります。

子どもたちの行動を正し、よい方向に導きたいという教師の思いを、子どもたちに伝え、受け入れてもらえるような話し方の練習をします。資料 (P56)

Ⅱ スキルを説明する

- ① 「私は・・・」のように、意味的主義が「私」となるように言う
 - ・「うるさい。」→「おしゃべりしていて大丈夫？ (私は) 心配だ。」
- ② 肯定的に言う
 - ・「○○しないで。」→「△△してほしい。」
- ③ 感情を伝える
 - ・「○○ができたね。先生はうれしい。」

Ⅲ 演習をする

【場面設定例】

先生は、提出期限日に課題を提出しなかった生徒と、昼休みに、一対一で面談をすることになった。

例1 「私」メッセージを意識しないで話す

生徒：失礼します。
先生：ああ，来た，来た。
提出物なんだけど・・・

生徒：はい。
先生：いつも、課題、出さないよね。どうして、出さないの？やってないでしょ？
生徒：あ、いや、えっと、ううん・・・
先生：毎晩、ゲームばかりやってるんだろう。なんで、ちゃんとやらないの？
生徒：はい・・・

例2 「私」メッセージを意識して話す

生徒：失礼します。
先生：ああ、来た、来た。よかった、来てくれて。
提出物について、話を聞きたいんだ。10分位、いいかな？
生徒：はい。
先生：昨日締め切りの課題、出したかな？
生徒：まだです。
先生：そうだね。出てないから、先生、がっかりしたんだよ。
あれは、すごく大事だったから、絶対やってほしかったんだ。
生徒：はい。
先生：何か、提出できない理由でも、あったのかな？
生徒：プリントが・・・
先生：プリントが、どうしたの？
生徒：なくしてしまいました。
もらいに行こうと思っていたんですが・・・ 忘れちゃって・・・
先生：そうか。気付いたときにすぐ来てくれたら、うれしかったけどなあ。
残念だなあ。
生徒：すみません。プリント、まだ、もらえますか？
先生：ああ、いいよ。一緒に職員室に行こう。

- ① 二人組を作り、先生と生徒の役になって例1を行う。終わったら役を交代する。
- ② 次に、例2を行う。終わったら役を交代する。

IV 振り返りをする

- ① 感じたことをワークシート（P57）に記入する。
- ② 感じたことを、一緒に演習を行った人と話し合う。

留意事項

- その状況下での、「自分の気持ち」と「伝えたいこと」を分けて伝えることの大切さを意識するように気を付ける。
- 参加者の人数によっては、ロールプレイの際に二人の様子を見る観察者を設定し、ロールプレイ後に感想を話してもらう。

成果

- 普段は意識せずに行動していることを振り返ることができた。
- ポイントを意識しながら対話すると、それほどストレスを感じないことが分かった。
- 「あなた」メッセージと「私」メッセージの違いについて理解することができた。
- ロールプレイを通じて、普段の言葉遣いを振り返ることができた。
- 先生、生徒、観察者の三役をやることで、理解が深まった。
- 教師は、言葉で伝える職業なので、技術を向上させることは大切だと感じた。

〔資料〕

「私」メッセージスキル 前向きに伝えよう

1 ねらい

日常の子どもへの接し方を振り返り、自己を理解し、子どもへの理解を深め、前向きな人間関係をつくる会話を考えることができるようにする。

2 ポイント

- ① 「私は・・・」のように、意味的主義が「私」となるように言う。
- ② 肯定的に言う。
- ③ 感情を伝える。

3 演習

場面設定

先生は、提出期限日に課題を提出しなかった生徒と、昼休みに、一対一で面談することになった。

例1 「私」メッセージを意識しないで話す

生徒：失礼します。
先生：ああ、来た、来た。
提出物なんだけど・・・
生徒：はい。
先生：いつも、課題、出さないよね。どうして、出さないの？やってないんでしょ？
生徒：あ、いや、えっと、ううん・・・
先生：毎晩、ゲームばかりやってるんだろう。なんで、ちゃんとやらないの？
生徒：はい・・・

例2 「私」メッセージを意識して話す

生徒：失礼します。
先生：ああ、来た、来た。よかった、来てくれて。
提出物について、話を聞きたいんだ。10分位、いいかな？
生徒：はい。
先生：昨日締め切りの課題、出したかな？
生徒：まだです。
先生：そうだね。出てないから、先生、がっかりしたんだよ。
あれは、すごく大事だったから、絶対やってほしかったんだ。
生徒：はい。
先生：何か、提出できない理由でも、あったのかな？
生徒：プリントが・・・
先生：プリントが、どうしたの？
生徒：なくしてしまったんです。
もらいに行こうと思っていたんですが・・・忘れちゃって・・・
先生：そうか。気付いたときにすぐ来てくれたら、うれしかったけどなあ。
残念だなあ。
生徒：すみません。プリント、まだ、もらえますか？
先生：ああ、いいよ。一緒に職員室に行こう。

〔ワークシート〕

実施日 月 日（ 曜日） 時 分～ 時 分

前向きに伝えよう ワークシート

I～Ⅲ メモ欄

IV 振り返り

1 例1のとき、どう感じましたか？

2 例2のとき、どう感じましたか？

3 本日の研修を行ってみて、どう感じましたか？

記入者氏名

「私」メッセージを使ってみよう**ねらい**

自分の気持ちを、適切な表現の仕方でもに伝えることで、スムーズに子どもとのコミュニケーションをとれるようにする。

【ポイント】

- ① 「私」メッセージを構成するためのポイントを確認する。
- ② 「私」メッセージで表現する。

準備 提示資料，資料（カード内容例）

進め方**I ねらいを説明する**

普段自分が使っている表現で、どのようなメッセージが子どもに伝わっているのかを考えてみましょう。次のような場面はよく見られる光景ではないでしょうか。

場面：授業中子どもが騒いでいる

先生の最初の思い：「授業が進められない。困ったな。」
↓ 「授業の内容が頭に入らないのではないか。心配だな。」
先生の思いの変化：「なんで静かにできないんだ！」
→先生の発言：「うるさい、静かにしなさい！」

「うるさい、静かにしなさい！」と表現したとき、先生方が最初に感じた、不安な気持ちや困った気持ちは、子どもに伝わっているのでしょうか。

今回は、自分の気持ちを伝えるための表現方法である、「私」メッセージの構成方法について学んで、普段から意識して使えるようにしましょう。

II スキルを説明する**① 「私」メッセージを構成するためのポイントを確認する**

- ア 問題となっている部分はどこか。
- ・生徒がうるさくしている。
- イ どのような影響があるのか。
- ・先生は気になって、授業を進められない。
- ウ 先生がどのように感じているのか。
- ・こんなことが続くのは悲しい。

② 「私」メッセージで表現する

「私」メッセージとは、意味的な主語が「私」である言葉遣いである。「私」メッセージは、①原因、②結果、③感情の三つの要素が大切である。

[例] 「皆さんがうるさくしていることが気になって、先生は授業を進められません。

①原因

②結果

こんなことが続くのは悲しいなあ。」

③感情

Ⅲ 演習をする

例 引いたカードが「授業に出る。」の場合

「私」メッセージ→「授業の欠課時数が増えているので、このままでは、単位の修得が危ないかもしれない。先生としてはAさんが卒業できなくなってしまうのは悲しいな。」

- ① 二人一組になる。
- ② ポイントを参考に、カード（資料）をめくって「私」メッセージに換えてみる。場面については各自で設定する。
- ③ お互いにカードを引いて、「私」メッセージに換える。（時間：15分程度）
- ④ お互いに感じたことについて話し合う。
- ⑤ どのような場面で使っていくのかについて考える。

叱るときや生徒の行動を抑えるときに、「私」メッセージを使うことは難しく感じる。全ての場面で「私」メッセージを使うことを意識するのではなく、初めは先生からの依頼を行うような状況（「ごみを捨ててきてくれ。」→「ごみを捨ててきてくれると先生はうれしいな。」など）から、「私」メッセージを使用していく練習をしていく。「あなた」メッセージとのバランスを取りながら使っていくことが大切である。

Ⅳ 振り返りをする

- ① ポイントとなっている項目を实践できたか。
- ② 今後学校生活を送る上で特に気を付けていきたい点は何か。

留意事項

- 私を主語にする部分だけにとらわれず、「私」メッセージを構成するためのポイントを意識してメッセージを伝えることが大切である。
- 子どもの学力に応じて、表現の仕方を換えていく必要がある。
- 定着へのステップとして、カレンダーなどに、「私」メッセージを使うことができた日は○を付けて、実際の学校生活の中で活用できているかを振り返るとよい。

成果

- カード形式で演習することで、状況に応じて即座に「私」メッセージに換える練習ができた。
- 普段、自分の思いを意識的に伝えようとするのが少ないので、指示だけでなく、背景となる部分なども伝えていく必要があると感じた。

〔提示資料〕

①

「私」メッセージを
使ってみよう

②

○ 教室の中で騒いでいる。

困ったな 心配だな 怒ってる

先生 → 生徒

うるさい!

今までの表現で、先生方が伝えたかったことは伝わっていましたか？

③

いわゆる、先生の立場に立った発言

- ・ 静かにしなさい。 **「あなた」メッセージ**
- ・ きちんと授業を受けなさい。
- ・ スカートを上げなさい。

使いやすいし、慣れてしまっている。
生徒としては、責められている、非難されている気がしてしまう。

否定的、反発的な感情

④

なぜ、このようなメッセージになってしまうのでしょうか？

- ・ 先生の最初の思い
↓ 「授業が進められない。困ったな。」
↓ 「授業の内容が頭に入らないのではないかと。心配だな。」
- ・ 先生の思いの変化
↓ 「なんで静かにできないんだ！」
- ・ 先生の発言
「うるさい、静かにしなさい！」

⑤

自分の気持ちを的確に伝えるためには・・・

- ①問題となっている部分はどこか
- ②どのような影響があるのか
- ③先生がどのように感じているのか

を的確に伝えることが大切

⑥

「うるさい、静かにしなさい！」

- ①問題となっている部分はどこか
・ 生徒がうるさくしている。 **「私」メッセージ**
- ②どのような影響があるか
・ 先生は気になって授業を進められない。
- ③先生がどのように感じているのか
・ こんなことが続くのは悲しい。
「皆さんがうるさくしていることが気になって、先生は授業を進められません。こんなことが続くのは悲しいなあ。」

⑦

○ 練習をしてみましょう。

「ノートをしっかりとれ。」

- ①問題となっている部分はどこか
- ②どのような影響があるのか
- ③先生がどのように感じているのか

⑧

○ 実践してみましょう。

カードをめくって、どんどん「私」メッセージに換えましょう。

- ①問題となっている部分はどこか
- ②どのような影響があるのか
- ③先生がどのように感じているのか

慣れてきたら、一気に変換

〔資料〕

| | |
|------------|---------------|
| 「静かにしなさい。」 | 「ノートをしっかりとれ。」 |
| 「きちんと座れ。」 | 「制服をしっかりと着ろ。」 |
| 「提出物を出せ。」 | 「授業に出ろ。」 |
| 「勉強しなさい。」 | 「前を向け。」 |
| 「掃除をやれ。」 | 「ごみを捨ててこい。」 |

子どもの考える力を育てる会話をしよう

ねらい

相談を要する子どもに対して、子どもの内面にある考えを引き出し、自分で考える力を育てるための会話を進めることができるようにする。

【ポイント】

- | | |
|--------------|-------------------|
| ① 子どもに話をさせる。 | ② 一緒に考えていくことを伝える。 |
| ③ 答えを待つ。 | ④ 実行の確認をとる質問をする。 |

準備 付箋2色, ワークシート, 掲示用資料

進め方

I ねらいを説明する

教師は子どもに比べれば人生経験も豊かで知識も豊富であるがために、未熟な子どもの前に立つといろいろなことを教えたくくなります。ところが、教師が教えてばかりいては、子どもが自分で考える機会を奪ってしまいますね。

そこで、子どもの考える力を育てるために、教師が子どもの内面にあるやる気を引き出し、子どもの自発的な考えや行動を促していくような会話を進められるようにしていきます。

II スキルを説明する

① 子どもに話をさせる

「何かあったの?」、「何が問題なの?」など、会話に広がりのある質問をする。

② 一緒に考えていくことを伝える

「どうしたらいいんだろうね。先生と一緒に考えよう。」といったように、質問をしながらも、一人ではないという安心感を与える。

③ 答えを待つ

子どもに考える機会を与える。考えてもらうことが目的なので、その場で答えを求める必要はない。その場合は、具体的な期限を設定して考える時間を与える。

④ 実行の確認をとる質問をする

「自分で考える力」には、解決策を実行する力も含む。そこで、実行の日時や、実行までの期限、実行する回数などを具体的に質問する。

III 演習をする

【場面設定例】

昼休み、児童Aが相談に来た。仲よしのグループから仲間外れにされているような気がするという訴えである。

児童A：このごろ、仲のよかったグループのみんなに仲間外れにされているような気がするんです。どうしよう先生。

例1 考える力を育てる会話例

児童A：このごろ、～です。どうしよう先生。
先生：どうしてそう思ったの？
児童A：～だからです。
先生：それでAさんは、どうしたいのかな。
児童A：～したいです。
先生：～するにはどうしたらよいか、一緒に考えよう。Aさんの考えを聞かせて。
児童A：〇〇〇すればよいか。
先生：Aさんは、〇〇〇したらよいと思っているんだね。よく考えたね。

例2 考える機会を奪ってしまう会話例

児童A：このごろ、～です。どうしよう先生。
先生：けんかでもしたんじゃないの。よく考えてごらん。
児童A：そんなことしてません。
先生：他に原因でもあるの？
児童A：分かりません。(又は) 〇〇〇かもしれません。
先生：じゃあ、先生が聞いておくよ。(又は) 先生が注意しておくよ。

- ① ブレインストーミングを行う。(付箋を使ってまとめる)
- ② 子どもが解決策を考え、実行するにはどうすればよいかを考える。
- ③ ブレインストーミングを基にロールプレイを行う。
- ④ 役を交代し、ロールプレイを行う。

IV 振り返りをする

- ・子どもが解決策を考え出し、解決策を実行しようとする気持ちになるにはどのように会話を進めていけばよいかについて話し合い、ワークシート(P64)に記入する。

留意事項

- 子どもの理性に訴えるような質問をしても、自分から考え出そうとしない場合には、教師の感情を伝えるための感情語を意識的に使い、子どもの感情に訴える。子どもの努力を認める言葉掛けにも教師の感情を添えると、思いが更に伝わりやすくなる。教師の発する「私」メッセージからの感情語は、子どもの心を動かす言葉となる。
* 「先生は悲しいな。」「先生もうれしいよ。」「そう思わないのか、残念だな。」等
- 迷いが強かったり、どうしてよいか分からなかったりして、自分の考えが出せない場合は、閉じた質問を繰り返しながら考えを導いていく。
* 「～したいの?」「～は好きなの?」「～はできたの?」等

成果

- 普段の子どもたちへの対応を振り返り、関わり方やつながり方を見直すきっかけになった。改善点を見いだしたり、逆に自信や安心感を抱いたりすることができた。
- ブレインストーミングを行うことで、「考える力を育てる会話」と「考える機会を奪ってしまう会話」を比較しながら、自分の普段発している言葉を客観的に見つめたり、子どもたちに与える効果の違いを考えたりすることができた。

〔ワークシート〕

子どもの考える力を育てる会話をしよう

1 Iについて（メモ）

2 IIについて（メモ）

3 IIIの「考える力を育てる会話」について気が付いたことを書いてください。

4 IIIの「考える機会を奪ってしまう会話」について気が付いたことを書いてください。

5 これから言葉掛けで意識していきたいことを書いてください。

〔揭示用資料〕

①

コーチング会話スキル
子どもの考える力を育てる
会話をしよう

②

ねらい
子どもの内面にある考えを引き出し、自分で考える力を育てるための会話を進めることができるようにする。

③

コーチング会話スキルのポイント
① 子どもに話をさせる
「何かあったの？」
「何が問題なの？」
等、会話に広がりのある質問をする。

④

コーチング会話スキルのポイント
② 一緒に考えていくことを伝える
「どうしたらいいんだろうね。先生と一緒に考えよう。」
等、質問をしながらも一人ではないという安心感をえる。

⑤

コーチング会話スキルのポイント
③ 答えを待つ
子どもに考える機会を与える。
その場で答えを求める必要はない。具体的な期限を設定して考える時間を与える。

⑥

コーチング会話スキルのポイント
④ 実行の確認をとる質問をする
・ 実行の日時
・ 実行までの期限
・ 実行する回数
等を具体的に質問する。

子どもの「自分で考える力」を伸ばそう

ねらい

子どもの中にある考えや能力を引き出すための言語的・非言語的行動を身に付ける。

【ポイント】

- ① 傾聴スキル
- ② 「我々」メッセージ
- ③ コーチング会話スキル

準備 資料，ワークシート，振り返り用紙

進め方

I ねらいを説明する

私たちは、教師 (teacher) ですから、自分の内にある知識や情報を子どもたちに伝えようとしています。つまりティーチング (teaching) をします。ところが、ティーチングばかりだと、子どもは「自分で考える力」を身に付けることができず、問題に出くわしたときに自分で解決することができません。

そこで、ティーチングに替わってコーチング (coaching) をします。コーチングとは、教師が子どもの内にある考えや、やる気を引き出そうとする行為です。コーチングでは、教師は、教えるだけでなく、子どもを「支える人」、または問題解決に向かって子どもと「一緒に歩む人」の役割を担います。

子どもの中にある考えや能力を引き出すための会話スキルや言語的・非言語的行動 (コーチング会話スキル) を身に付けていきましょう。

II スキルを説明する

① 傾聴スキル

・聴き手に徹する。 ・開いた質問をする。 ・反射する。

② 「我々」メッセージ

意味的主語が「我々」「私たち」になるように。

(例) 「先生も一緒に考えるね。」

③ コーチング会話スキル

資料 (P68) を参考にしながらコーチング会話スキルにはどんなものがあるのかを知る。

III 演習をする

【場面設定例】

先生が放課後、教室で仕事をしていると、生徒がやってきた。「最近、学級のみんなが私を無視するんです。『キモイ』とか『ウザイ』とか言われているような気がするんです。私はみんなから嫌われているみたいです。」と言ってきた。

例1 ティーチング会話スキル

生徒：最近、学級みんなが私を無視するんです。『キモイ』とか『ウザイ』とか言われているような気がするんです。私はみんなから嫌われているみたいです。
先生：そうかな。先生はそうは思わないけどな。仲のよい友達は誰だっけ？
生徒：Aさんです。
先生：今度、Aさんに聞いてみたら？きっとあなたの思い過ごしだと思うけどな。
生徒：そうかなあ。
先生：そうに決まっているよ。じゃあ、先生は忙しいから、またな。

例2 コーチング会話スキル

生徒：最近、学級みんなが私を無視するんです。『キモイ』とか『ウザイ』とか言われているような気がするんです。私はみんなから嫌われているみたいです。
先生：どういうこと？もう少し詳しく話してくれる？
生徒：はい。最近、朝学校に来て、おはようと挨拶してもみんなおしゃべりしていて気付かないのか挨拶してくれないんです。
先生：誰も挨拶してくれないの？（反射）
生徒：はい。給食のときも『キモイ』とか『ウザイ』とか同じ班の男の子が言っているんです。たまたま目が合うと「見んじゃねえよ。」と言われるんです。
先生：そうだったのか。無視されるのと嫌なことを言われることで、つらい思いをしていたんだね。話しにくいことなのに先生に話してくれてありがとう。
一緒に考えてみようか。（「我々」メッセージ）

- ① ティーチングとコーチング会話スキルを使ったデモンストレーションを見る。
- ② 三人組になり、コーチング会話スキルを使って生徒の相談にのるときの会話を考え、ワークシート（P69）にシナリオを作成し、ロールプレイを行う。（先生役、生徒役、観察者）
- ③ 役割を交代してロールプレイを行う。
- ④ ロールプレイを行った感想をグループ内で述べ合う。
- ⑤ 2～3組が代表して演技をする。会話（セリフ）の中にコーチング会話スキルが取り入れられている部分を取り上げ称賛する。

IV 振り返りをする

- ① 本時の活動で感じたことや気付いたことを、振り返り用紙（P69）に記入する。
- ② 数名に発表するよう促す。

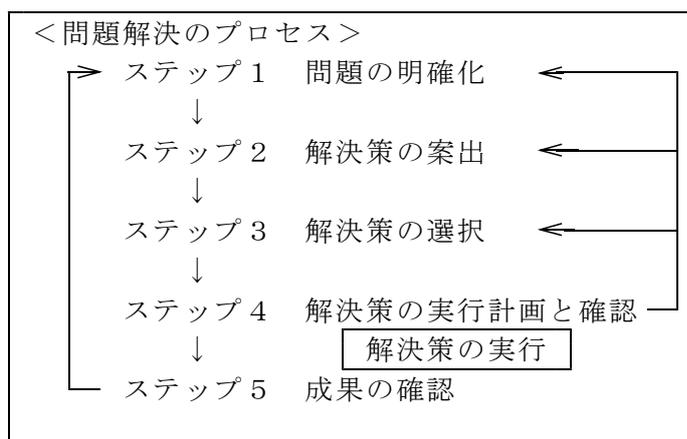
留意事項

- 会話を考えるときには、スキルを意識しながら会話を考えるようにする。
- ロールプレイをするときは、コーチングスキルを意識しながら会話をする。
- 三人一組になることが困難なときには、二人一組（先生役、生徒役）でもよい。

成果

- コーチング会話スキルについて知ることができた。
- これまでの自分の指導を振り返り、子どもに考えさせる場面や発問が少なかったことに気付くことができた。
- 三人組でロールプレイを行うと、観察者がいるので、ポイントを確認しながら、ロールプレイを行うことができた。

〔資料〕



ステップ1 問題の明確化

- ① 何が問題なのかを明らかにする。
問題点が分かっている子どもにも考えさせる、開いた質問をする。「何が問題なんだろう。」「どうしたらよいのだろう。」
- ② 問題を確認する。
焦点を絞った、閉じた質問をする。「要するに〇〇ということだね。」「〇〇したんですね。」

ステップ2 解決策の案出

- ① 「我々」メッセージを使う。「先生も一緒に考えるよ。」
- ② 制限や理性的判断を外してあげる。
「思い付くままにあげてみようか。」「時間があるとしたらどんなことができる。」
- ③ 立場、視点を変えさせる。
「君が先生だったら、どうする?」「未来の君なら、今の君に何て言う?」
- ④ 過去の成功体験を思い出させる。
「前に〇〇したとき、どうやって仲直りした?」
- ⑤ ヒントを与える。「～するといいと思うけど、どう思う?」等
- ⑥ 答えを待つ。「ゆっくり考えていいんだよ。」「明日までに考えておいで。」
- ⑦ どのような解決策であっても受容する。感情語を使う。
「なるほど。」「それもいいね。」「それは楽しいね。」等

ステップ3 解決策の選択

- 複数の解決策の中から一つの解決策を選択させる。
- ① 順番や重要性に気付かせる。「一番最初にしなければならないことは何だろう。」
 - ② とりあえず一つ選ぶよう促す。
「とりあえずやってみる価値があるのはどれだろう。」等

ステップ4 解決策の実行計画と確認

- ① 選択した解決策の実行を子どもに宣言させる。「具体的にはどうする?」
- ② どのように実行するか具体的に確認する。「それはいつまでにできる?」「月曜日までに済ませるんだね。」等
- ③ 子どもが返事をしなかった場合は、その理由を尋ねる。場合によってはステップ1に戻る。「やりにくい理由は何かな?」「どうしてできないと思う?」

ステップ5 成果の確認

- ① 子どもに成果を評価させる。
「うまくできたと思う?」「自分では、どの程度満足している?」
- ② 子どもの努力や変化を評価する。「前よりずっとよくなっているよ。」等
- ③ 失敗したとき、原因を尋ねる。「どうしてうまくいかなかったんだろう。」
- ④ 改善点を考えさせる。「今度やるときはどうしたらいい?」等

〔ワークシート〕

【場面設定例】

先生が放課後、教室で仕事をしていると、生徒がやってきた。「最近、学級の間が私を無視するんです。『キモイ』とか『ウザイ』とか言われているような気がするんです。私はみんなから嫌われているみたいです。」と言ってきた。

生徒： 「最近、学級の間が私を無視するんです。『キモイ』とか『ウザイ』とか言われているような気がするんです。私は嫌われているみたいなんです。」

先生：

生徒：

先生：

生徒：

先生：

生徒：



〔振り返り用紙〕

振り返り

1 「ティーチング」と「コーチング」の違いを理解することができましたか。

できた だいたい あまり できなかった
できた できなかった

2 「コーチング会話スキル」を意識してロールプレイができましたか。

できた だいたい あまり できなかった
できた できなかった

3 ロールプレイの中で、子どもの「自分で考える力」を伸ばす質問ができましたか。

できた だいたい あまり できなかった
できた できなかった

4 この時間のトレーニングで、感じたことや考えたことを書きましょう。

「声かけマジック」で子どもを伸ばそう

ねらい

自分で考える機会を与える言葉の掛け方を意識することで、子どもたちに考える力を身に付けさせる。

【ポイント】

- ① 「声かけマジック」
- ② 非言語コミュニケーションを意識する。
- ③ コーチング

準備 ワークシート1, ワークシート2

進め方

I ねらいを説明する

将来、子どもたちが社会で生きていくためには、自分のことを自分で考え判断できることが必要となります。つまり、学校教育の目標は、素直に話を聞くことができる人間を育てるだけにとどまらず、自分で考え、判断し、実行できる人間を育てていくことと考えられます。

今回の研修は、子どもとの会話の中で、子ども自身が考える機会をもつ言葉掛けを増やすことを目的として、声掛けの練習をします。子どもが、自分で考えて行動する機会を増やすことで、現在や将来の問題を、子ども自身が考えて解決できる能力を育てられるように支援していきたいと思います。

II スキルを説明する

① 「声かけマジック」

- ・見たまま言葉
- ・柔らかな思考を促す質問
- ・「なに？」という質問
- ・「私」メッセージ

② 非言語コミュニケーションを意識する

ア まず「非言語コミュニケーション」を意識し、教師を受け入れる気持ちを、子どもにもたせるようにする。

イ 次に、「子どもの人格は肯定し、行動は否定する言葉掛け」を意識し、子どもに自ら行動を振り返らせる言葉掛けをする。

③ コーチング

ア コーチングは、スポーツ界では20世紀半ば、ビジネス界では20世紀終わりから使われ、考えて判断できる人の育成に成功、教育界でも活用され始めた。

イ コーチングは促すこと、ティーチングは教えること、考える力を育てるためには両方を併用すると効果的である。

Ⅲ 演習をする

【場面設定例】

先生は、次のような場面で、生徒に声を掛ける。

いつもは落ち着いた行動の生徒が、廊下を猛スピードで走っている。

例1 「コーチング」を意識しないで声を掛ける

先生：こら！ なんで廊下を走っているんだ！

例2 「コーチング」を意識して声を掛ける

先生：やあ、ちょっと待って。危ないよ。何か、急ぎの用事でもあるのかい？

- ① ワークシート1 (P72) の「なぜ (なんで) ?」質問を、別の言葉掛けに書き換えることができるか、考える。
- ② 場面を選択し、ワークシート2 (P73) に言葉掛けのシナリオを作る。
- ③ ロールプレイを行う。(先生役、生徒役、または、先生役、生徒役、観察者)

Ⅳ 振り返りをする

- ① 書き換えの前後の言葉掛けについて、感じたことを記入する。
- ② 今までの言葉掛けを振り返り、今後の言葉掛けで意識したいことを記入する。

留意事項

- 子どもの人格を尊重しながら、行動を否定し、子ども自身に考えさせるためには、「ティーチング」と「コーチング」を意識した言葉掛けは有効であると考える。
- 「なに？」という質問に置き換える練習を繰り返すことで、意識せずに、子ども自身に考える機会を与える言葉掛けができるようになることを確認する。

成果

- 子どもへ言葉掛けをする際、ティーチングとコーチングの併用を意識することの有効性について理解を深めることができた。
- 子どもの人格は肯定し、望ましくない行動は否定する言い方について練習することができた。
- 子どもがよい方向へ向かうように促す声掛けをするためには、冷静さを失わないことも大切だと感じた。
- 言葉そのものだけでなく、非言語コミュニケーションの影響が大きいことを実感することができた。
- 観察者をするすることで、他の参加者のロールプレイを見て、自分と比較することができた。
- 生徒役をすることで、どのように言葉掛けをされると、どのように感じるかを体験でき、その状況の子どもの気持ちを理解することができた。

[ワークシート 1]

コーチング会話スキル

「声かけマジック」で子どもを伸ばそう

○ どのような言葉に、言い換えますか。考えてみましょう。

(1) いつもは落ち着いた行動の生徒が、廊下を猛スピードで走っている。
「なんで、廊下を走ってるの！」

→

(2) 毎日のように友達とトラブルのある生徒が、今日も友達と叩き合い。
「なんで、けんかしているの！」

→

(3) 一週間に1回程度の提出率の生徒が、今朝も未提出。
「なんで、家庭学習ノートを提出しないの！」

→

(4) 普段は真面目な授業態度の生徒が、1校時の授業で居眠り。
「なんで、授業中に寝ているの！」

→

(5) 名札を忘れず付けるように指導して3日目。今日も付けていない。
「なんで、名札を付けないの！」

→

(6) 4校時終了後、ガラスの割れる音。教師用机上にあった花瓶が割れている。
提出されたノート類が水浸し。「なんで、倒したの！」

→

(7) いつも分担場所を離れて遊んでいる生徒。今日も、おしゃべりばかり。
「なんで、掃除しないの！」

→

[ワークシート2]

○ ワークシート1から場面を選び、ロールプレイの教師のセリフを作しましょう。

(例)

〇〇さん、おはよう。いつも元気な挨拶ですね。

あれ、制服のボタンが外れてますよ。何か、わけでもあるのかな。

()

()

()

()

「なに？」で質問してみよう

ねらい

子どもが、自分のことを自分自身で考える力を伸ばすために、教師が、「なぜ？」の質問から「なに？」の質問に変えようとする意識をもてるようにする。

【ポイント】

- ① (肯定する言葉) + (実際の行動) + (原因はなに?)
- ② 判断・評価しない聴き方
- ③ 質問のデモンストレーション

準備 デモンストレーション台本, ワークシート

進め方

I ねらいを説明する

教師は、子どもたちが、将来、社会で役立てる人間になるよう、多くの会話を通して指導に当たっています。社会で役立てる人間を育てるとは、自分のことを自分で考えて判断しながら生きていく人間を育てることと考えられます。子どもに考えさせる機会を増やすためには、教師の質問を、答えを見付けやすい具体的なことを尋ねる質問や、素直に考えようとする質問にすることが必要です。

この研修は、子どもに考えさせる機会を増やすために、「なに？」で質問するスキルを身に付けることをねらいとしています。「なに？」の質問は、子どもが答えを見付けやすく、責められていると感じさせにくいため、反抗や拒絶の反応が減り、前向きに考えさせることができると考えられます。

II スキルを説明する

- ① (肯定する言葉) + (実際の行動) + (原因はなに?)
 - ・「どうして集中できないの？」は、責められているという印象を与えやすい質問
 - ・「〇〇の授業は集中していたよね。でも△△の授業には集中できない原因はなに？」の質問は、よい点を認めながら、間違った行動をとっている原因を考えさせる質問
- ② 判断・評価しない聴き方
 - ・子どもの答えに対する評価や判断は、素直な考えの妨げになる可能性
 - ・子どもが意見やアドバイスを求めたときのみ、教師の判断や意見等を提供
- ③ 質問のデモンストレーション

生徒役は、事前に一人の教師に依頼しておき、台本 (P76) を基にしたデモンストレーションを行う。デモンストレーションが終わってから、参加者全員に台本を配付し、会話に含まれていたスキルの補足説明をする。

【場面設定例】

空き時間だったので、5校時が始まって20分ほど過ぎたころ、廊下から担任している学級の様子を見ると、授業中の教室を歩き回り、他の生徒に話し掛けているAさんを見かけた。Aさんは、私に気づき着席した。その日の放課後の教室で、私はAさんに話し掛けた。

【場面設定例①】

期末テストが近付いてきた。しかし、最近成績が下がり気味のBさんは、今日も家庭学習をやってこなかった。帰りの会が終わった教室で、Bさんに話し掛けた。

【場面設定例②】

今日の清掃の時間、Cさんがほうきで窓ガラスを割ってしまった。見ていた生徒の話から、ほうきをバットのようにして振り回していたことが分かった。Cさんが窓ガラスを割ってしまったのは、担任してから2回目である。幸い、誰も怪我することはなかった。放課後、Cさんと一緒に、教頭先生に謝罪に行く前に話す場面である。

例 「なに？」を用いた質問

場面設定例①：家庭学習を毎日やっていたBさんなのに、最近やらなくなった原因はなに？

場面設定例②：よいことと悪いことの判断ができるCさんなのに、ガラスを割ってしまった原因はなに？

- ① 二人組を作り、生徒役と先生役になって、考えさせる言葉の掛け方を意識してロールプレイを行う。
- ② 役を交代し、ロールプレイを行う。三人組の場合は、一人が観察者となり、先生役の言葉掛けの様子を観察する。

IV 振り返りをする

- ① 生徒役と先生役のロールプレイの感想を、ワークシート（P77）に、それぞれ記入する。
- ② 今までの質問を振り返りながら、これからの子どもへの質問について話し合う。

留意事項

- 「なぜ？」「どうして？」の質問を「なに？」の質問に変えるには慣れが必要である。日々の会話で「なに？」の質問ができるように、意識しながら会話をすることが大切である。

成 果

- 子どもに考えさせる質問としての有効性に気付くことができた。
- 難しいスキルであるため、研修を重ねる必要性を感じた。

「なに？」で質問してみよう

- T Aさん、ずいぶん急いで着替えているね。(見たまま言葉)
- S 早く帰って、昨日買ったゲームをやりたいんだ。
- T ゲームをやりたいから急いでいるんだ。(反射)
- S そうだよ。前から欲しかったゲームだからさ。先生もゲームとかやるの？
- T 先生も好きだよ。休みの日くらいしかできないけどね。(「私」メッセージ)
- S ぼくは、今日もやるんだ。
- T うらやましいなあ。急いで帰りたいのは分かったけど、先生少し話をしたいんだよ。
- S どうせ、今日の5時間目のことでしょ。
- T そう。なんだか、先生、心配になっちゃってさ。(「私」メッセージ)
- S 出歩いていたからでしょ？
- T そうだよ。他の授業では座って集中できていたのに、数学の時間だけできなかった原因はなにかな？(なに?)
- S だって、数学ってつまらないんだよね。だから、ゲームの攻略法を聞いていたんだ。
- T つまらないのかあ。(反射)
- S 計算もできなくなっちゃったし、ますます嫌になっちゃうよ。
- T 嫌になっちゃう気持ちは分かるよ。でも、出歩いていることは、やっぱり心配だよ。
- S (沈黙の傾聴)
- T 授業に集中するには、何が必要だと思う？(具体的な思考内容の提案)
- S 計算ができるようになればいいかな。
- T なるほどね。計算できるようになりたいんだ。(明確化)
- S うん。
- T 計算ができなくなった原因はなにかな？(なに?)
- S 1年生の頃はできたんだよ。2年生になって、できなくなったんだ。
- T 1年生の頃はできていたんだね。
1年生の頃はできたのは、今とは、何か違ったのかな？(過去の成功例の引出し)
- S だって、難しくなかったから分かっていたし、練習していたからね。
- T 練習していたんだ。すごいね、なんだかうれしい話だよ。
その頃は、授業に出ていたとき、どういう気持ちだったの？(過去のよい思い出の引出し)
- S 答えが出ればうれしかったし、先生の話もよく聞いて、分かろうとしていたよ。
- T 新しいことも分かりたいと思っていたんだね。(明確化)
- S 新しいことが分かるとうれいでしょ。
- T そうだね。先生は、新しいことが分かって喜んでるAさんを見られるとうれいな。
(「私」メッセージ)
- S そうしたいけど、もう無理だよ。
- T 先生は無理じゃないと思うんだけど、無理だと思う原因はなにかな？(なに?)
- S だって、分からないことが一杯になっちゃったから。
- T それで？(促す質問だが、責めになることもあるので注意)
- S どこから勉強すればよいのかも分からないし。
- T どこから勉強すればよいのが分かれば、1年生の頃のように、がんばれるのかな？
- S うん。でも、どうすればよいのか分からないよ。
- T 提案していいかな？(提案前の確認)
- S 一緒に数学のB先生に、どこから復習すればよいのか聞きに行こうか。
- S うん。一人じゃ聞きに行きにくいから助かるよ。

〔ワークシート〕

コーチング会話スキル

「なに？」で質問してみよう

- 1 生徒役と先生役の感想を、それぞれ記入してください。

生徒役の感想

先生役の感想

- 2 今までの質問を振り返りましょう。今後、子どもへの質問について意識していきたいことを記入してください。

今までの質問

今後、子どもへの質問について意識していきたいこと

「なに？」で質問する練習をしよう

ねらい

教師が、子どもの考える力を伸ばす手立ての一つとして、「なに？」と質問することが考えられる。「なに？」と質問するには、慣れが必要である。自然に「なに？」の言葉で質問ができるように練習する。

【ポイント】

- ① (肯定する言葉) + (実際の行動) + (原因はなに?)
- ② 判断・評価しない聴き方

準備 ワークシート 1, ワークシート 2

進め方

I ねらいを説明する

教師が「なに？」で質問するスキルを身に付けることをねらいとした研修を行った後に取り組む研修です。「なに？」の質問は、子どもが、答えを見付けやすいこと、素直に考えようとするところから、自分自身で考えようとする気持ちを伸ばそうとする質問です。しかし、日常の会話で「なぜ?」「どうして?」と聞きたい内容を「なに？」で質問できるようになるには慣れが必要です。

そこで、今回の研修は、毎日の会話で、自然に「なに？」の質問ができるように練習します。最初に、ワークシートに記されている「なぜ?」「どうして?」「Why?」の質問を、「なに?」「What?」の質問に書き換えます。次に、ロールプレイを行い、子どもの行動を、好ましい方向に導こうとする会話の練習をします。

II スキルを説明する

- ① (肯定する言葉) + (実際の行動) + (原因はなに?)
 - ・責められているという印象を与えにくいことから、前向きな思考の可能性
 - ・客観的に自分を見つめさせることから、冷静で具体的な思考の可能性
 - ・「どうして集中できないの?」は、責められているという印象を与えやすい質問
 - ・「○○の授業は集中していたよね。でも△△の授業には集中できない原因はなに?」の質問は、よい点を認めながら、間違った行動をとっている原因を考えさせる質問
- ② 判断・評価しない聴き方
 - ・子どもの答えに対する評価や判断は、素直な考えの妨げになる可能性
 - ・子どもが意見やアドバイスを求めたときのみ、教師の判断や意見等を提供

Ⅲ 演習をする

【 課 題 】

- ① なんで、家庭学習をやってこないの？
- ② なんで、ガラスを割ったの？
- ③ なんで、授業中寝ているの？
- ④ なんで、忘れ物が減らないの？
- ⑤ なんで、廊下を走るの？
- ⑥ なんで、最近ぼんやりしているの？
- ⑦ なんで、けんかなんかしたの？
- ⑧ なんで、黙っているの？黙っていても、なにも分からないよ。

- ① 各自、ワークシート1 (P80) に記されている「なぜ？」の質問を「なに？」の質問に書き換える。
- ② 三人組を作り、生徒役と先生役、観察者の分担を決める。
- ③ グループごとに、ワークシートの中から場面を選択して、ロールプレイを行う。
- ④ 役を交代し、ロールプレイを行う。

例 「なに？」の質問に言い換えた質問例

- ① 家庭学習が大切と分かっているのに、やってこられない原因はなに？
- ② 危ない場所でふざけちゃいけないと分かっているのに、割ってしまった原因はなに？
- ③ 授業は大切だと分かっているのに、寝てしまっている原因はなに？
- ④ 忘れ物はいけないと分かっているのに、減らせないね。減らしたら、なにが変わるかな？
- ⑤ 廊下を走ると危ないと分かっているのに、走ってしまうね。走らなくなると、なにが変わるかな？
- ⑥ いつもは元気なのに、最近ぼんやりしているね。ぼんやりしている原因はなにかな？
- ⑦ けんかをするとうるさい気持ちになると分かっているのに、けんかをしてしまったね。けんかをしてしまうと、しないときの違いはなにかな？
- ⑧ 黙っていてもなにも変わらないと分かっているのに、黙ってしまう程の原因があるんだね。話せない理由はなにかな？

Ⅳ 振り返りをする

- ① 先生役、生徒役、観察者のそれぞれの立場で気が付いたことをワークシート2 (P81) に記入する。
- ② 数人の教師に、観察者としての感想を発表してもらい、「なに？」の質問の長所や短所、難しさを考える。
- ③ 今までの質問を振り返り、これからの質問について意識していきたいことを記入する。

留意事項

- 教師が、子どもに「なに？」で質問するには、質問する前に意識しなければならないことが多い。「なぜ？」の質問を「なに？」の質問に書き換える練習を繰り返すことで、意識せずに「なに？」で質問できるようにしていくための研修である。

成 果

- 「なぜ？」「どうして？」と聞きたい質問を「なに？」に言い換えて質問するロールプレイをしたことで、「なに？」の質問に慣れることができた。

[ワークシート 1]

コーチング会話スキル

「なに？」で質問する練習をしよう

○ どのような言葉に、言い換えますか？

(1) なんで、家庭学習をやってこないの？

(2) なんで、ガラスを割ったの？

(3) なんで、授業中寝ているの？

(4) なんで、忘れ物が減らないの？

(5) なんで、廊下を走るの？

(6) なんで、最近ぼんやりしているの？

(7) なんで、けんかなんかしたの？

(8) なんで、黙っているの？黙っていても、なにも分からないよ。

〔ワークシート2〕

コーチング会話スキル

「なに？」で質問する練習をしよう

1 (1)～(3)について、気が付いたことを記入してください。

(1) 先生役として「なに？」で質問する長所と短所

(2) 生徒役として「なに？」で質問されたときの気持ち

(3) 観察者として「なに？」の質問をやりとりしている先生役と生徒役の様子

2 今までの質問を振り返りましょう。今後、子どもへの質問について意識していきたいことを記入してください。

今までの質問

今後、子どもへの質問について意識していきたいこと

質問の幅を広げよう

ねらい

教師の質問の幅を広げることで、子どもが自分のことを自分自身で考えようとする力を伸ばすことができるようにする。

【ポイント】

- ① 数字で答える質問
- ② リスト3（スリー）の質問
- ③ 許可をとる質問
- ④ 質問のデモンストレーション

準備 デモンストレーション台本，ワークシート

進め方

I ねらいを説明する

自分のことを、自分自身で考えようとする力を伸ばす方法の一つとして、教師が、答えやすい質問を繰り返すことが挙げられます。答えを考えてみる経験の積み重ねが、自分のことを自分で考え、判断しながら生きていく人間を育てることになります。

この研修は、教師が、複数のパターンで子どもに質問できるようになることをねらいとしています。質問の幅を広げれば、状況に合わせた多彩な質問が可能になります。また、会話に弾みをつけ、子どもとのコミュニケーションが深まることが期待できる質問についても研修します。

II スキルを説明する

① 数字で答える質問

- ・ 程度の違いを数字で表現することで、状況を客観的に把握させやすい質問

② リスト3（スリー）の質問

- ・ 解決策を三つ求めることで、考えを深めさせ、多様な考えを引き出す質問
- ・ 解決策について、他の解決策と比較検討が可能

③ 許可をとる質問

- ・ 提案や質問の前に発言の許可を求める質問
- ・ 教師の考えの押しつけという印象の防止と、教師の発言を受け止める準備のための質問
- ・ 教師の発言に対する考えを述べさせることで、コミュニケーションの充実に活用可能

④ 質問のデモンストレーション

事前に一人の教師に生徒役を依頼しておき、台本（P84）を用いてデモンストレーションを行う。デモンストレーション終了後、全員に台本を配付し、会話中のスキルを説明する。

【場面設定例】

Aさんは、授業中の私語が多い。授業担当の教師は、繰り返し注意をして指導している。指導に対して、素直に従えるときが多いが、改善は長続きできない。指導に対して、反抗することもある。

担任が、Aさんの状況改善を図るため、放課後の教室で、二人で話すことにした。

【場面設定例①】

自分が担任する学級のBさんは、最近、授業中にぼんやりしたり、部活動が無断で休んだりするなど、気になることが多い。そこで、放課後の教室で、二人で話すことにした。

【場面設定例②】

自分が担任する学級のCさんは、何事にも一生懸命に取り組むがんだりである。そんなCさんが、通知票の成績を更に伸ばしたいが、どうしたらよいか分からないと相談してきた。

例 場面設定例①

先生：最近のBさんを見ていると、何に対しても、やる気をもてないみたいだね。
生徒：勉強も部活動も、今までみたいな気持ちでやれないんです。
先生：Bさんが、一生懸命にやっている時を10点だとしたら、今は何点くらいかな。
生徒：5点くらいかな。
先生：半分になっているんだね。10点に近付けるためには、なにをすればよいと思うかな。
：

- ① 二人組を作り、生徒役と先生役になって、考えさせる言葉の掛け方を意識してロールプレイを行う。
- ② 役を交代し、ロールプレイを行う。
- ③ 三人組の場合は、一人が観察者となり、先生役の言葉掛けの様子を観察する。

IV 振り返りをする

- ① 生徒役と先生役、観察者の感想を、ワークシート（P85）に記入する。
- ② 教師が、子どもの考えようとする気持ちを伸ばすための質問をするには、どのようなことを意識しながら会話を進めていけばよいのかを話し合う。

留意事項

- 教師が状況に応じた多彩な質問を発することで、子どもの考える意欲の向上が図れることをねらった研修である。子どもの変容を求めようとする質問を繰り返しては、なかなか子どもは変わらない。問題点を、子ども自身に客観的に見つめさせる質問を心掛けたい。
- 簡単に身に付けられるスキルでありながら、効果の大きさを期待できる。研修内容を積極的に日常の会話に活用していくことを確認する。

成果

- 子どもが話しやすくなる質問や、考えさせる質問は難しいと悩んでいる教師にとって、すぐに使えるスキルであることに気付くことができた。
- すぐに使えるスキルでありながら、コミュニケーションを取りやすくなるという利点があることに気付くことができた。
- ポイントが分かりやすく、実践しやすいという意識をもつことができた。

質問の幅を広げよう

- T 今日も、数学の授業で、後ろの人に話し掛けていたんだって聞いたけど、本当？
- S そうだけど、あれは、後ろのAさんが話し掛けてきたからだよ。
- T そうだったのか。話し掛けられたから、Bさんも、話しちゃったんだね。(反射)
- S そう。
- T じゃあ、Aさんとは、明日話してみなければいけないね。
せっかくだから、Bさんに、聞いておきたいことがあるんだけど、聞いてもいいかな？
(許可をとる質問)
- S いいけど・・・なに？
- T ありがとう。(受け入れたことへの感謝の気持ちの表現)
最近、授業中におしゃべりをしたり、授業の先生が注意に対して、逆に怒り出したりする
とか、先生は、Bさんのことが心配でしかたないんだよ。(「私」メッセージ)
- S ...
- T 前は、おしゃべりもしなかったよね。最近、おしゃべりが増えた理由は、なにかな？
(なに？)
- S ...なんだろう・・・分からないな・・・Aさんが近くだからかな。
- T そうかあ、Aさんの近くだと話しちゃうということかな。(反射)
- S うん。
- T じゃあ、Aさんの席と遠くになれば、もうおしゃべりしないのかな？
- S ...ちがうな・・・別の人と話すと思う。
- T じゃあ、他の原因もあるのかな。なんだろうね。(なに？)
- S ...分からない。
- T 難しい質問みたいだね。じゃあ、別の質問をしていいかな？(許可をとる質問)
- S うん。
- T 授業中のBさんって、10点満点ならば何点くらいになると思う？(数字で答える質問)
- S 5点・・・いや4点かな。
- T では4点だとしようか。10点に近付けるためには、なにをすればいいと思う？(なに？)
- S ...授業に集中すればいいと思う。
- T 授業に集中するということだね。(反射)
その他にも考えられるかな。(他の考えを促す質問)
- S ...分からないよ。
- T じゃあ、集中するためには、なにが必要かな？三つ考えてみようか。(リスト3の質問)
- S 三つも？
- T だって、他の方法もあれば、一つの方法で失敗しても、何とかなるかもしれないでしょ。
- S じゃあ考えてみようかな。
- T 先生も一緒に考えるよ。(「我々」メッセージ)
- S まずは・・・

〔ワークシート〕

コーチング会話スキル

質問の幅を広げよう

- 1 生徒役と先生役の感想を、それぞれ記入してください。

生徒役の感想

先生役の感想

観察者として生徒役を見て

観察者として先生役を見て

- 2 三つの質問を使えるようにするためには、どのようなことに注意すればよいと思いますか。これから意識していきたいことを記入してください。

積極的に話しかけて考えさせよう

ねらい

学校生活で、教師が子どもに自分で考える機会を与える言葉の掛け方を意識することで、考える力を育てるようにする。

【ポイント】

- ① 「我々」メッセージ
- ② ヒントや解決策を与える質問
- ③ 実行の確認と称賛
- ④ 考えさせる場面を設定したデモンストレーション

準備 デモンストレーション台本、ワークシート

進め方

I ねらいを説明する

教師は、社会に役立つことで、自分の存在に自信をもてる人間になるように子どもたちを教育しています。将来、子どもたちが社会で生きていくためには、自分のことを自分で考え判断できることが必要となります。つまり、学校教育の目標は、教師の指示を素直に聞くことができる人間を育てることではなく、自分で考えることができる人間を育てることと考えられます。

この研修は、教師と子どもとの会話の中でありがちな指示する言葉掛けを減らし、子ども自身に考えさせる言葉掛けを増やすことを目的としています。子どもが、自分で考えて行動する機会を増やすことで、現在や将来の問題を、自分自身で考えて解決できる力が育てられるのではないのでしょうか。

II スキルを説明する

① 「我々」メッセージ

「どうすればよいと思いますか。」と考えさせるだけでは、教師は何も考えてくれないと誤解を招いてしまう可能性もある。そこで、「どうすればよいと思いますか。一緒に考えましょう。」とひと言付け加えることで、安心感を与えられる。

② ヒントや解決策を与える質問

子どもが、なかなか解決策を考えられない場合は、ヒントを与える質問や、解決策を提案することが必要となる。質問や提案の前に「提案してもいいかな。」と子どもの同意を得る質問をすることで、一緒に考えているという印象を与える。

③ 実行の確認と称賛

子どもと一緒に解決策を考えて指導を終わりにせず、時間をとってから、実行の確認をするための質問をする。実行に移していない場合は、実行できない原因を一緒に考える。実行できていた場合は、変化の有無にかかわらず、実行できたことを誉める言葉をかける。実行が失敗に終わった場合は、次の成功につなげられる言葉を掛ける。また、失敗で終わ

ったとはいえ、実行したという努力を認め、誉めることも忘れずに実行する。

④ 考えさせる場面を設定したデモンストレーション

生徒役は、事前に一人の教師に依頼しておき、台本（P88）を基にしたデモンストレーションを行う。デモンストレーションが終わってから、参加者全員に台本を配付し、会話に含まれていたスキルの補足説明をする。

【場面設定例】

授業開始5分後、授業がないので、職員室に戻ろうとしていた先生が、廊下の窓から、一人で外を見ている生徒を見かけた。教室に戻って授業に参加するよう話す。

Ⅲ 演習をする

【場面設定例】

帰りの会が終わった。教室を見ると、一人の生徒が帰らずに残って、グラウンドをぼんやりと見ていた。ため息をついていて、何かを考え悩んでいるようであった。

例 考えさせる話し方

先生：何か考えているように見えるね。

生徒：・・・

先生：ため息をついているときって、悩んでいるときが多いから、心配しちゃうよ。

生徒：親が、3年生なんだから勉強しろってうるさいから、家に帰りたくないんです。

先生：そうだったのか。どうすればいいか、一緒に考えてみようか。

⋮

- ① 二人組を作り、生徒役と先生役になって、考えさせる言葉の掛け方を意識してロールプレイを行う。
- ② 役を交代し、ロールプレイを行う。三人組の場合は、一人が観察者となり、先生役の言葉掛けの様子を観察する。

Ⅳ 振り返りをする

- ① 生徒役と先生役のロールプレイの感想を、ワークシート（P89）に記入する。
- ② 今までの言葉の掛け方を振り返り、これからの子どもへの声の掛け方について話し合う。

留意事項

- 指示を与える指導に比べて、子ども自身に考えさせる指導は手間と時間がかかる。しかし、自分のことを自分で考えられる人間を育てるためには必要な言葉掛けであることを確認する。

成果

- 相手の気持ちを考えながら話し掛けているようでも、結論を急いで話していたことがあると気づき、反省する機会となった。

コーチング会話スキル

積極的に話しかけて考えさせよう

- T 何を見ているの。(見たまま言葉)
- S . . .
- T 授業始まっているけど、何かあったのかな？(なに?)
- S 仲がいい友達が休みだから、教室にいてもつまらないんだよね。
- T 友達が休みなんだ。そりゃつまらないね。(反射)
- S うん。
- T まだ、3時間目だけど、今日一日どうする？(開いた質問)
- S どうしようかな。帰りたいけど。
- T 帰りたいのかあ。つまらないから、しかたないのかな。
でも、先生、心配になってきたな。(「私」メッセージ)
- S 先生の学級じゃないんだよ。関係ないじゃない。
- T 先生の学級ではないけど、知っている生徒だから、心配になるよ。(「私」メッセージ)
- S そうなんだあ。
- T そうだよ。Aさんは、どうするのが一番いいのか考えられる生徒だって知っているから、なおさら、心配だよ。(「私」メッセージ)
- S 授業に出ればいいのは分かっているけど、今から戻るのは、なんだか恥ずかしいから戻りたくないんだよね。
- T そうかあ、恥ずかしいから戻れないんだね。(反射)
- じゃあ、どうすればいいか、一緒に考えようか？(「我々」メッセージ)
- S どうしようかな。でも、どうすればいいか、分からないよ。
- T 前にも、途中から教室に戻ったことはなかったの？(過去の成功例の引出し)
- S あったよ。あの時は、担任のB先生が、一緒に教室まで来てくれたんだ。
- T B先生と一緒に行ってくれたんだね。(反射)
- S うん。だから、入りやすかったんだ。
でも、今日はB先生いないし、どうしようかな . . .。(沈黙の傾聴)
- T じゃあ、言ってもいいかな？(ヒントや解決策を与える質問)
- S なに？
- T 今日、先生と一緒にいくから、行ってみようか？(ヒントや解決策を与える質問)
- S どうしようかな。
- T Aさんが頑張ってくれたら、先生もうれしい気分になるんだよなあ。(「私」メッセージ)
- S . . .それじゃ、行ってみようかなか。
- T その思い切りのよさがいいね。うれしいな。(「私」メッセージ)
- (次の休み時間の廊下にて)
- T おや、Aさん。3時間目どうだった？(実行の確認と称賛)
- S ちゃんとやったよ。
- T そうかあ。安心した。(「私」メッセージ)
- S 心配ないって。安心してよ。

〔ワークシート〕

コーチング会話スキル

積極的に話しかけて考えさせよう

- 1 生徒役と先生役の感想を、それぞれ記入してください。

生徒役の感想

先生役の感想

- 2 今までの言葉の掛け方を振り返りましょう。今後、言葉の掛け方について意識していきたいことを記入してください。

今までの言葉の掛け方

今後、言葉の掛け方について意識していきたいこと

生徒の伸びる力を支えよう

ねらい

子どもと関わる場面において、子どもの思いをくみ、子どもの中にある考えや能力を引き出す方法（コーチングスキル）を使った面接の方法について学び、問題解決を目指す。

【ポイント】

- ① 子どもが抱えている問題の答えは、子ども自身も持っている。
- ② 問題解決のプロセスに沿って行う。

準備 資料1，資料2

進め方

I ねらいを説明する

教師は、面談や子どもと話す場面など、様々な機会に子どもを何とか伸ばそうと考えていると思います。そんなとき、「～しなさい。」という指示はとても役に立ちます。かくいう私もセンター試験までカウントダウンの子どもを見ているので、それまでに何とかしたいと考え、つい「次は～しなさい。」「終わったら、これ。」と指示の嵐です。初めは、特に知識の習得の場面でそれは効果的なのですが、読解問題や成績が伸びない等、子どもの思考の場面や個々人の学習相談になると一人一人違いますので、一斉の指示ではお手上げです。毎年涼しい風が吹く頃に反省し、ストーブが入る頃に子どもと話をします。そんなときに役に立つのがコーチングの技術です。会社やスポーツ等での活用が進んでいるので、もう、ご存じの方もいるとは思いますが、今回は、教師がよく行う面接の場面にコーチングを使って子どもの力を引き出すというエクササイズです。子どもから質問を受けたときなどにも使えると思います。

そして、今日の演習に係わる考え方ですが、「ソーシャルスキルトレーニング」という考え方に基づいて行います。訳すると「人とつき合うための技術」という意味です。これはあくまでも、「技術」として「こんなやり方があるよ。」という紹介です。「技術」ですからどなたにも使えるし、知っているといろいろな場面に応用可能です。

II スキルを説明する（パワーポイントを使って）

- ① 子どもが抱えている問題の答えは、子ども自身も持っている

自分で考える力を育てるには、ティーチングでなくコーチングが有効であり、子どもが抱えている問題の答えは、子ども自身も持っているという前提で進める。

② 問題解決のプロセスに沿って行う

- ステップ1 問題の明確化
↓ ・何が解決すべき問題なのかを子どもと一緒に明らかにする。
- ステップ2 解決策の案出
↓ ・子どもに問題の解決策をできるだけ多く考えさせる。
- ステップ3 解決策の選択
↓ ・すぐに実行できる解決策を選択する。
- ステップ4 問題解決の実行計画と確認
↓ ・いつ、どこで、どのように実行するか確認する。
- ステップ5 成果の確認
↓ ・解決策を実行したか確認する。

Ⅲ 演習をする

【場面設定例1】

昼休みに、A先生（英語）とBさんが個別面談をしていたら、「私は英語が苦手なのですが、どうしたらできるようになりますか？」と言ってきた。

【場面設定例2】

Cさんが、「最近、友達との関係がぎくしゃくしてきた。」と、D先生に相談した。

① ウォーミングアップ（3分）

- ・二人組になる。
- ・誕生月を聞く。誕生月が早い方が先出し、遅い方が後出しになる。「後出し負けジャンケン（先出しに負けるように後出しは出す。）」を30秒間続ける。役割を交代して30秒間続ける。間違えた回数が多い人が負け。

② 資料1（P92）の英語の所を自分の教科にして【場面設定例1】をやってみる。

③ 【場面設定例2】生徒に関わる問題（友達関係・生活上の問題）について、問題解決にこの手法を使ってみる。資料1（P92）の下線に注意する。

Ⅳ 振り返りをする

- ① 今回の演習で思ったこと、感じたことを話し合う。
- ② 今回やったことを、どんな学習活動に使いたいか、話し合う。

留意事項

- 問題解決のプロセスに沿って行い、うまくいかない場合は、その都度振り返りながら進める。

成果

- 子どもが自分の問題を明確に認識し、自分の考えの中から、解決策を実行するのをサポートできた。
- ティーチングに終始することなく、子どもとの会話ができた。

〔資料 1〕

○教科の所を自分の教科にして【場面設定例 1】をやってみよう！！

【場面設定例 1】

昼休みに、A先生とBさんが個別面談をしていたら、「私は英語（自分の教科で）が苦手なのですが、どうしたらできるようになりますか？」と言ってきた。

〔例〕 コーチングを使ってこんな言い方をしてはどうでしょう

B：A先生、私は英語が苦手なのですが、どうしたらできるようになりますか？
A：英語が苦手なのか。どんな所が苦手なのかな？
B：声を出したり発音したりするのが苦手です。
A：英語も言葉なので、声を出したり使ったりした方が英語に親しめるし理解も深まるけれど（教科に合わせて言い方を変える）、決してそれが唯一の方法ではないんだよ。Bさんは、別の方法で英語が得意になりたいんだね。
B：はい。
A：それじゃあ、Bさんに合った、英語が得意になる方法を、先生と一緒に考えてみよう。（問題の明確化）
B：はい！お願いします。
A：それでは、今まで、英語を習ってきて、学習がスムーズに行ったときとか、そういうことをあげてみよう。（解決策の案出）
B：○○○○○。
A：なるほど。そういうことが得意なんだね。それでは思い付くまま、大きいことでも小さいことでもよいから、できるようになるための方法を挙げてみようか。
B：○○○○○。
A：そうだね。
B：○○○○○。
A：それもいいね。
B：○○○○○。
A：それだったら、○○をするのもよいと思うけどどう思う。
B：よいと思います。
A：それじゃあ、今まで出してくれた中で一番最初にしなければならないことは何だろう。（解決策の選択）
B：○○○○○です。
A：それはやってみる価値があるかな？
B：はい、あると思います。
A：じゃあ、具体的には、どうやっていこうか？
B：まず、○○○○○を、○○までにやります。（問題解決の実行計画と確認）
A：なるほど、それはどこで、どれくらいやるの。
B：そのためには、家で1日○時間○○○○○をします。
A：なるほど、具体的になってきたね。よい計画だと思うよ。まずはその計画でやってみよう。実行するのに何か問題になることはあるかな？
B：いいえ、ありません。まず、○○○○○をやってみます。ありがとうございました。

○上の流れを使って【場面設定例 2】でもやってみよう！！

☆コーチングもティーチングもどちらもできたらよいですね。

[資料2]

①

コーチング会話スキルを使って

「生徒の伸びる力を支えよう」

—自分で考える力を育てる—

《子どもが抱えている問題の答えは、子ども自身も持っている》

②

問題解決のプロセスに沿った コーチング会話スキル

- ・ステップ1 問題の明確化
- ・ステップ2 解決策の案出
- ・ステップ3 解決策の選択
- ・ステップ4 問題解決の実行計画と確認
- ・ステップ5 成果の確認

※スキル（技術）→誰でもどこでも、考え方にかかわらず使えるもの

③

ステップ1 問題の明確化

①何が問題か、何がしたいのかを明らかにする。

「どうなりたいのかな。」（開いた質問）

②問題を確認する。（焦点化・閉じた質問）

「～ができるようになりたいんだね。」

※問題によって解決策は違ってくるので、ここをしっかりと確認する。

※問題が複数あるときは一つにする。

※次のステップでつまずいたらここに戻る。

④

ステップ2 解決策の案出

■問題の解決策をできるだけ数多く引き出す。

①一緒に考えることを伝える。

（「我々」メッセージ）

「どうしたらよいか先生と一緒に考えよう。」

②制限や理性的判断を外してあげる。

（思考の揺さぶり）

「何でも思い付く案を挙げてみようか。」

③立場・視点を変えさせる。

「来年の今頃はどうなっていると思う。」

⑤

ステップ2 解決策の案出

④過去の成功体験を思い出させる。

「前には、どうやって乗り切った。」

⑤ヒントを与える（押し付けない）。

「～するとよいと思うけど、どう思う。」

⑥答えを待つ。

⑦この時点では、どのような解決策でも受容する。

認める言葉を使う。

「そうだね。」、「それもいいね。」

⑥

ステップ3～5 解決策の選択・ 実行計画・成果の確認

①実行の可能性に気付かせる。

②一つ選ぶよう促す。

③選択した解決策の実行を宣言させる。

④実行する方法を具体的に確認する。

⑤返事を渋った場合は、その理由を尋ねる。

⑥子どもに成果を評価させる。

⑦子どもの努力や変化を評価する。

⑧失敗したとき、原因を本人に尋ねる。

⑨改善点を考えさせる。

5 研究のまとめ

(1) 小学校部会

<成果>

- ロールプレイを繰り返し行うことにより、教師の対応による子どもの気持ちの違いを体感することができ、改めて子どもたちに向き合う教師の教育相談的な姿勢が大切であると認識することができた。
- 日々の指導の中では、教師の言い分を一方的に分からせようとする場面があるが、それが必ずしも効果的であるとは限らず、場合によっては子どもの思いや感情をしつかりと聴くことが大切であることが分かった。
- 繰り返し研修することにより、身に付けたそれぞれのスキルを、学校生活の中で子どもへの対応に生かせるようになってきた。具体的には、教師が傾聴や「私」メッセージで関わることにより、反発していた子どもが素直に話を聴けるようになったり、子どもにコーチング的な関わりをすることにより、自分たちで考え解決するようになったり、少しずつではあるが、子どもにも変容が見られるようになってきている。

<課題>

- ◇ 研修の直後は納得して意識をしながらスキルを使うことができるが、時間が経つと忘れてしまいがちである。身に付くまで繰り返し研修することが大切である。研修時間の確保や短時間でも効果的に研修できるような工夫をしていかなければならない。

<まとめ>

子どもを教え導く我々教師にこそソーシャルスキルが必要であることが分かった。そして、ソーシャルスキルを身に付けることが目標ではなく、子どもたちと思いやりのある関係を築いていくことが目標であることを肝に銘じ、さらに研修を続けたい。

(2) 中学校部会

<成果>

- 各校の職員がソーシャルスキルの必要性を認識することができ、その上でスキルを身に付けることができたこと、身に付けたスキルを子どもとの関わりの中で実践しようという意識を高めることができたことなどが挙げられる。
- 研修前に比べ、学校行事で、子どもが活躍する場面が増えたという学校もある。このことは、教師が研修で身に付けたスキルを、子どもと関わる場面で効果的に活用し、子どもと教師の好ましい人間関係につなげることができた結果だと考えられる。

<課題>

- ◇ スキル定着度の差に応じた研修の在り方を探ること、保護者に対応する場面の研修を設定することが挙げられる。スキル定着度の差に応じた研修については、定着している教師にとって、「またこのスキルの研修か。」という思いをもたせないような場面設定を工夫し、より確実なスキルの定着を図れるプログラムが必要だと考える。また、保護者に対応する場面を設定することで、もう一方の課題にも対応できると考える。

<まとめ>

教師のソーシャルスキルを高めることは、子どもと教師の好ましい人間関係づくりの深化につながるということが分かった。好ましい人間関係づくりは教育相談や生徒指導の充実につながると捉えれば、教師のソーシャルスキルを高めることは、教育相談、生徒指導の充実に大きく寄与できると考える。更なる研修に励みたい。

(3) 高等学校部会

<成果>

- 教師のためのソーシャルスキルトレーニングというものがあまり認識されていなかった教育現場において、まずは、ソーシャルスキルとはどういったものなのかを知ってもらえたことが大きな成果だと考える。
- ソーシャルスキルを学ぶことにより、「子どもに話し掛ける、子どもの話を聴く」などといった、今までの自分の行動について、無意識で行っていた部分が、スキルの一部であることに気付くことができた。
- ソーシャルスキルトレーニングを行うことで、単に子どもの話を聴くだけでなく、子どもの意見を上手にくみ取ったり、子どもの考えを促したりなど「聴き方」をより深めることができるようになった。

<課題>

- ◇ 今回の実践は、一部の教師に対してソーシャルスキルトレーニングを行う形式であった。今後、多くの教師が参加できるような校内のシステムづくりが必要になってくると考える。
- ◇ 生徒指導、進路指導、教育相談など様々な場面で、より多くの子どものニーズに応えるためにも、体系的にまとまったソーシャルスキルトレーニングを構築していきたい。

<まとめ>

教師からは、ソーシャルスキルトレーニング実践後、子どもと接する中でトレーニングしたスキルを使ってみたという話を聞くことができた。技法的な部分を学ぶだけでなく、実践に近い形でトレーニングを行ったので、そのまま学校生活の中で使うことができた。そして、今まで意識せずに行っていた行動についても、意識的に行うことで、よい結果が得られたという声もあった。今後更に子どもたちとのよりよい人間関係を築いていくために教師のソーシャルスキルを高めていく必要があると感じた。

6 研究の成果

児童生徒のソーシャルスキルを育む、「教師のためのソーシャルスキルトレーニング」について研究を進めてきた結果、次のような成果が明らかになった。

- (1) 児童生徒のスキルの向上を目指すには、教師のスキルを向上させればよいという視点が新しく、意義深い研究になった。
- (2) 教師が研修プログラムを作り同僚の教師が実施しているので、場面設定に現実性があり、研修意欲の高い研修プログラムが作成できた。
- (3) 小学校、中学校、高等学校のそれぞれの校種の特徴を踏まえ、研修プログラムの内容を工夫することができた。

7 今後の課題

理論研究と実践を平行して進める中で、次のような課題が明らかになった。

- (1) スキルトレーニングを実施前と実施後の教師の変化をデータ化する。
- (2) 知識（こつ、技）をスキル化して自分のものにするための、スモールステップの工夫について研究する。
- (3) スキルの維持発展について研究を続ける。

文 献

- 相川 充 2008 先生のためのソーシャルスキル サイエンス社
- 相川 充・佐藤正二 2006 実践！ソーシャルスキル教育 中学校 図書文化社
- 相川 充・猪刈恵美子 2010 イラスト版子どものソーシャルスキル友だち関係に勇気と自信がつく42のメソッド 合同出版
- 河村茂雄 2002 教師のためのソーシャル・スキル 誠信書房
- 本間正人・松瀬理保 2006 コーチング入門 日本経済新聞出版社
- 本間正人・松瀬理保 2006 セルフ・コーチング入門 日本経済新聞出版社
- 千々布敏弥 編著 2008 教師のコミュニケーション力を高めるコーチング 明治図書
- 深谷和子 編集代表 2010 児童心理6月号臨時増刊 コーチングとは何か 金子書房
- 佐々木喜一 監修 小山英樹 著 2008 子どもの心に届く言葉，届かない言葉 学研パブリッシング

関係者一覧

研究協力員

| | | |
|--------------|----|--------|
| 常陸太田市立小里小学校 | 教諭 | 小林 宜弘 |
| 土浦市立下高津小学校 | 教諭 | 畑山 尚弘 |
| 下妻市立大宝小学校 | 教諭 | 山本 晴美 |
| ひたちなか市立平磯中学校 | 教諭 | 木村 智恵 |
| 潮来市立牛堀中学校 | 教諭 | 小沼 美由紀 |
| 石岡市立府中中学校 | 教諭 | 宮本 謙一 |
| 茨城県立高萩清松高等学校 | 教諭 | 西田 淳 |
| 茨城県立並木高等学校 | 教諭 | 川村 始子 |

茨城県教育研修センター

| | |
|--------|----------------|
| 所長 | 谷田部 佳見 |
| 教育相談課長 | 廣原 高志 |
| 指導主事 | 柴山 優子 |
| 指導主事 | 渡邊 政美 |
| 指導主事 | 近重 敦子 |
| 指導主事 | 玉井 康浩 |
| 指導主事 | 小松 智樹 |
| 指導主事 | 萩谷 孝男 (平成22年度) |
| 指導主事 | 篠崎 浩 (平成22年度) |

助言者

国立大学法人東京学芸大学教授 相川 充

研究報告書第78号

教育相談に関する研究

教師のための

ソーシャルスキルトレーニング

平成22・23年度

平成24年3月発行

編集 茨城県教育研修センター教育相談課

発行 茨城県教育研修センター

〒309-1722

茨城県笠間市平町1410

TEL 0296(78)3219 (教育相談課直通)

FAX 0296(78)2122

URL <http://www.center.ibk.ed.jp>